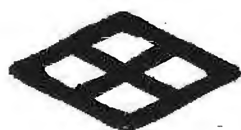
合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593―65―2156（代表）
郵便番号 512

理事長登壇（14）



西宮市（兵庫）協会理事長
務台良紀

　高校野球のメッカ甲子園球場の所在地西宮市にハンドボール協会設立の話題が出たのは、昭和四十六年秋、和歌山での国体で兵庫県高校女子選抜の監督として出場する機会に恵まれ、コーチの白井勇氏（市西宮東高）と共どもゲームに臨み、二回戦で敗退した時であった。この大会出場の教訓を何かの形で残したいとの話しがどちらからともなく出てそれには西宮市にハンドボール協会を設立し時代の推移とともに、スポーツの面に新しい波が押し寄せている現在、スポーツの本質を追求し市民のスポーツ向上、底辺拡充を計り社会体育の充実になればと話し合い発足の準備を進めることになったのである。

　協会設立のまず第一目標として社会クラブ化した少年クラブの強化と、スポーツになじみの薄い成人層の活動を主とした。

　それ以来の西宮市協会の変遷をまず御紹介しておこう。四十七年二月、協会発足準備委員会を開くべく準備を進め、発起人に私をはじめ市内のハンドボール競技経験者で前記の目標を達成すべく、会長に細山治氏を依頼し同氏の承認を得ることが出来た。新しい協会の誕生である。（加盟チーム数高校男子六、同女子四校）。

　西宮市に協会設立の話題が出る以前は市民体育大会にオープン種目として参加し現在に至っている（当時男子三校、女子二校）。又、特に昭和四十一年度全国高校綜合体育大会に兵庫県代表として、男子西宮東高、女子夙川学院の西宮市内両校が出場する機会にめぐまれたが、この時期より市内高校でもハンドボールに関心を示し、数高校で同好会の結成を見ることが出来た。又一般チームもOBを中心として加盟する意向があり協会設立に拍車をかけた。

　四十七年四月、西宮市体育協会に正式加盟申請、同五月の市体育協会理事会において満場一致で認められ、市民体育大会には協会設立記念大会として盛大に西宮東高校で行なった。役員構成、協会の規約、主目標の検討などが各理事の協力で着々と進み、特に年間事業の中で、明石市協会（増岡会長）との親善大会を両市協会で主催し市民のスポーツ向上と、小、中学生の導入を図り両市の親善を通し県ハンドボール界の発展に寄与する目的をもち毎年交互に主催することに決まりその第一回大会を明石市の好意で五月に実施した。本市側の実情で、高校男女、一般男子の三試合を行ない二勝一敗で明石市が総合優勝、市長杯を獲得された。その後両市の役員で反省会を開き今後は、小中学校のスポーツ少年団、地域クラブを中心に行ない両市の社会体育振興に協力していくこと確認した。

　市体育協会加盟を機会に市体育指導委員、体育振興会委員に定期的なハンドボール教室開催の依頼を市教委よりうけ、春、秋二回の指導を行なう。市立市民体育館にハンドボールコート（40ｍ×20ｍ）一面が完成したのを機に第一回の細山会長杯をかけた大会を開催、男女十四チームが参加し協会の基礎が出来た。

　本年二月になって当協会の初対外事業である第二回明石市親善大会を市民体育館で実施した。

　特に、当日は一般市民の観覧を取りあげ、広報を各新聞社に依頼しPRをし、観覧者にはハンドボールを知っていただくパンフレットを用意し数多い人員の動員に成功した。観覧者の中には、初めてハンドボールを見るが非常に面白い、是非地区で取りあげて地区体育振興にしたと申し出があり徐々に我々の苦労が実って来たことを喜んでいる。

　当協会の今後の進むべき方向は大会運営も大切なことではあるが指導者の育成に主眼を置き、ハンドボール教室、クラブを確立したく本年十月より毎月二回市民体育館に於いて実施計画をもっている

　最後に日本協会への要望として機関誌三月号の日本協会技術部新機構の中で述べられてあるコーチング、スクールの充実をせつにお願いしたい。日本体育協会に於いてもスポーツ指導員養成に本腰を入れ各府県においても講習会が開催されている。又バレーボール、バスットボール、サッカー協会等に於いても独自の指導者育成をされ、地域の指導者層の増加をはかっておられることが、現在の地位（人気スポーツ）につながっているものと思う。地域協会は、地域住民との直結を通し事業を行ないスポーツの向上を進めており、その中で公認指導者組織の確立が急務と考えている。日本協会のこの分野でのいっそうの研究、努力、意欲的前進を期して待ちたい（了）

「ハンドボール」49年4月号（第118号）目次

【表紙写真】第8回世界男子選手権、最終戦日本×西ドイツ戦の入場式（3月10日・マグデハーグ）

日本、前途に希望かける12位

東欧勢、上位（1〜7位）を完全に制す

世界選手権

第8回世界男子選手権は2月28日から3月10日まで、東ドイツ（ベルリンなど11都市）に、IHF（国際ハンドボール連盟）加盟53ケ国のなかから推せん、地域代表など世界最上位の16ケ国が参加して熱狂ムードのうちに行われた。

2月のアジア予選（対イスラエル、本誌前号既報）に勝ち、5たびアジア地域代表となった日本（林達夫団長、北川勇喜監督ら15人）は、強豪・東ドイツ、ソビエト、進境を伝えられるアメリカとまず予選リーグC組を戦い、ベストエイト（準決勝リーグ）進出を狙ったが、東欧2強は優勝候補の前評判どおり、いちだんとたくましさを増して日本の前へ立ちはだかった。日本は、東ドイツに完敗のあと、ソビエトに善戦したものの勝利は奪えず2敗、アメリカから1勝をマークしたものの、またしても宿願達成は成らなかった。

この結果、日本は9〜12位決定リーグにまわり、健闘をつづけたが初対戦のブルガリアに惜敗のあと伝統の西ドイツ、スウエーデンにも押し切られ12位に留った。

注目の優勝争いは、予想どおり東欧勢が、上位8ケ国のうち7ケ国を占めて、激しくせりあい、前回（昭45、パリ）同よう、ルーマニア×東ドイツの決勝から、ルーマニアが2連勝、4度目の〝ワールド・カップ〟とモントリオール五輪出場権を手にした。ミュンヘン五輪優勝のユーゴは3位。

なお、日本チームは、3月13日午後5時21分羽田着の日航機で無事帰国した。2月8日出発以来、アジア地域予選、ユーゴ、西ドイツでの親善試合をふくめ、今回の遠征総成績は11戦2勝2引分け7敗だった。

ソビエトに善戦空しく敗退

予選リーグC組

第1戦（遠征第5戦）東ドイツ（ミュンヘンオリンピック4位、前回2位）との試合は、大会のオープニングカードとして2月28日午後5時30分から東ベルリンスポーツホールで行われた。審判＝ネメック、ボルレス（チェコ）、観衆＝四千（定員三千七百）

東ドイツ 31（18—7／13—9）16 日本

試合経過 開幕直後の試合、しかも相手は地元、それも優勝候補一番手にあげられている東独だったが、日本は果敢に攻め、1分佐藤（本田技研鈴鹿）のゴールで先行、5、10分には藤中（大同製鋼）が決めて互角に試合を進め、16分3—7と引きはなされたが、17分菊池19分藤中、20分中井（大同製鋼）、21分佐藤で7—7と追いつく大健闘をみせた。

しかし、このあとパワーに優る東独は、日本デフェンスを攻めつけリードを奪った。日本も中井、佐藤らで追撃したが、結局前半は4点差（9—13）。

後半になると総合力の差がいっそうはっきりしだした。

最初の10分間が5—3、さらに最後の10分間が6—2、次の10分間は7—2と東独が確実に点差を開き、日本は一方的に押しまくられ、特に左腕・ガンショフの矢のようなシュートには手のほどこしようがなかった。シュート数は東ドイツ51、日本44。

全日本・北川勇喜監督の話 ユーゴ滞在中に、東独は今回不動の優勝候補であり、ミュンヘン後のメンバー交替も実にうまくいっている、という話を聞き、選手たちには、勝負を意識せず、思い切っていくところまでいこうと話した。

開会式直後、圧倒的な地元声援のなかで試合が始まり、初めのうちはとまどったがすぐに冷静さを取り戻し20分すぎまで互角に試合を進められたのは、こうしたリラックスした気分が作用した結果だ。しかし力の差は残念ながらはっきりしており、特に、60分間の集中という点で、東独はすばらしいものがあった。個々にはガンショフのシュートとラッケンマッハの機敏な動きに目を見はらされた。

得	【日本】		【東ドイツ】	（身長）	得
0	本田	GK	ボイクト	183cm	0
0	柳川兄	GK	ヴエイス	192	0
0	蒲生	FP	ガンショフ	183	7
2	木野	FP	P・ロスト	183	3
6	藤中	FP	ハイルデブラント	190	0
4	佐藤	FP	ボヘーム	186	4
1	菊池	FP	ラッケンマッハ	182	7
1	花輪	FP	エンゲル	190	2
0	村田	FP	ピエック	186	3
0	大江	FP	カエルレルト	200	4
0	柳川弟	FP	ローズ	177	1
2	中井	FP	ミュミット	184	0
61	（0）	7MT	（4）		31

後半、互角の大健斗

第2戦・ソビエト（ミュンヘンオリンピック5位。前回9位）との試合は、3月1日午後8時からブランデンバーグ体育館で行われた。審判＝ボルレス、ネメック（チェコ）、観衆＝一千（定員一千）

ソビエト 25（12—11／13—7）18 日本

得	【日本】		【ソビエト】	（身長）	得
0	本田	GK	イチエンコ	191cm	0
0	柳川兄	GK	シスチエフ	184	0
2	中井	FP	マキシモフ	186	4
1	藤中	FP	ピノフ	189	0
0	木野	FP	クラウゾフ	174	3
6	佐藤	FP	ウサティ	184	2
1	蒲生	FP	クリモフ	189	2
2	菊池	FP	ラグティン	184	3
0	村田	FP	クレフ	191	0
3	花輪	FP	マショリン	189	5
0	夏目	FP	オガネゾフ	186	6
3	柳川弟	FP	レザノフ	197	0
18	（2）	7MT	（4）		25

試合経過 ソビエトは9分4—0と先制、前半はこの差が試合展開を作用した。日本は10分佐藤、11分蒲生（中大）、16分藤中などで3—5と詰めたが、そのあと再びソビエトのマショリンを主力とした多彩な攻撃にゴールを奪われた。

後半になると、ソビエトはやや動きが鈍くなり、そのスキを日本がついて盛りあがった。

特に4分から3分間に花輪（大同製鋼）、中井、菊池（早大）とたたみかけた場面や、10分以降なんとか突きはなそうとするソビエ

トに食い下り10−15から11分柳川弟（大同製鋼）、13−18から15分佐藤15−20から21分菊池らがシュートを決めたあたりは場内を沸かせるに充分だった。

しかし、追われながらもソビエトは充分な余裕を示し、残り5分となってからウサテイ、オガネゾフ、ラグティン、クリモフらがポスト、ロング、サイドを射ち分けて、日本を押し切った。シュート数はソビエト39、日本37。

全日本選手団（15名）

▽団　長　林　達夫（71才）日本協会副会長

▽監　督　北川　勇喜（38）日体大（男）監督

				身長	体重	公式国際試合数		
▽コーチ兼選手（FP）	⑤木野　実	（27才）	湧永薬品	1m80	76K	50試合	(177)	(22)
▽GK	①本田　洋	(26)	大阪イーグルス	1m79	78K	41試合	・	・
	⑫柳川　清	(23)	大同製鋼	1m76	70K	10試合	・	・
▽FP	⑬藤中　憲二	(26)	大同製鋼	1m80	74K	30試合	(68)	(47)
	⑥佐藤　要二	(24)	本田技研鈴鹿	1m80	78K	12試合	(56)	(53)
	⑧中井　武三	(24)	大同製鋼	1m81	75K	28試合	(59)	(25)
	⑩大江　隆夫	(24)	三菱レイヨン大竹	1m70	67K	15試合	(6)	(1)
	③花輪　博	(23)	大同製鋼	1m77	74K	10試合	(7)	(7)
	⑪夏目　真治	(22)	中京大	1m81	73K	6試合	(1)	(1)
	④菊池　悟	(21)	早稲田大	1m85	84K	12試合	(16)	(16)
	⑦村田　幸男	(20)	法政大	1m75	68K	10試合	(2)	(2)
	⑨柳川　実	(20)	大同製鋼	1m75	70K	10試合	(15)	(15)
	②蒲生　晴明	(19)	中央大	1m92	87K	12試合	(20)	(14)

・左側の（　）内は公式国際試合通算得点数
・右側の（　）内は今回の遠征の得点数（＝BSV戦を除く10戦）
・○印は今回の背番号

北川監督の話　ベストエイトへ突入するためにはどうしても勝たねばならぬ一戦で、ミュンヘンでの体験から勝算はじゅうぶんにあったのだが、結局は守りのもろさが命取りになった。これは国際実戦でのせりあいになれていなかったことに原因がある。

後半は、観衆の大半が我々の健闘をたたえ盛りあがったが、定員千人たらずの小じんまりとした会場であったことも日本にとってはやりやすい〝環境〟であった。マキシモフが滞空時間の長いジャンプで日本の守備者を二人引きつけ、そのあとポストへ配球するプレーにかなりやられた。

日本、攻めまくり1勝
個性うすれたアメリカ

第3戦・アメリカ（アメリカ大陸代表、ミュンヘンオリンピック14位）との試合は、3月3日午後5時からブランデンバーグ体育館で行われた。審判＝ボルレス、ネメック（チェコ）、観衆＝千五百

日　本　29（16−9、13−9）18　アメリカ

試合経過　両国とも負けられない一戦。しかもアジア地域×アメリカ地域の代表という意識も手伝っていたが、日本には過去2勝の自信が大きかった。また、いきなり2本（2、3分）の7MTを佐藤が巧く決め、さらに5分佐藤のゴールで3−0としたスパートも利いた。

得	【日本】		【アメリカ】	（身長）	得
0	本田	GK	エデス	185cm	0
0	柳川兄	GK	リブニヤク	178	0
10	佐藤	FP	アブラハムソン	191	4
4	藤中	FP	バークホルツ	183	4
6	中井	FP	ロジャース	193	4
0	蒲生	FP	ベーカー	196	1
2	花輪	FP	ナイロール	178	3
3	菊池	FP	スパークス	191	2
0	大江	FP	モーゼ	185	0
4	柳川弟	FP	ヴインクラー	188	0
0	村田	FP	セサーラペード	185	0
0	夏目	FP	ハルデイマン	188	0
29 (6) 7MT			(5)		18

アメリカは平均年令が28才強と高く、主力はほとんど以前と変っていない。試合運びなどは上達しているが、スピード、体力で日本にはるかに劣り9分2−4、11分3−5と反撃の気勢を示したものの日本はそれ以上つけいるスキを与えず佐藤、中井らがみごとなシュートをはなってアメリカをゆさぶった。後半も日本が攻めまくり、10分19−11、20分25−13、25分27−15と危気なくスコアを開き快勝。シュート数は日本45、アメリカ39。

北川監督の話　アメリカは強くなっていると聞かされていたが、むしろオリンピックの時より落ちていた。ミュンヘンではバスケットボールやアメリカンフットボールなどの技法を織りまぜていたが、今回はよりハンドボール的になり、かえって特色がなくなってしまっていた。

黒人選手は3人ほどで、特に印象に残るプレーもなかった。

○……その他の試合……○

ソビエト　40（24−5、16−6）11　アメリカ

＜得点＞ソビエト＝クラウゾフ、クレフ各7、マキシモフ、マショリン各6、オガネゾフ5、ウサティ4、ラグテイン2、チカラエフ、クリモフ、レザノフ各1

アメリカ＝アブラハムソン、ベーカー各4、バークホルツ、ナイロール、スパークス各1

東ドイツ　35（19−8、16−6）14　アメリカ

＜得点＞東ドイツ＝ラッケンマッハ7、ガンショフ6、カエルレルト5、ハイルデブラント、ピエック各4、エンゲル3、ロスト、ボヘーム各2、ローズ、シュミット各1

アメリカ＝アブラハムソン4、ロジャース、スパークス各3、ナイロール2、バークホルツ、ベーカー各1

東ドイツ　15（8−11、7−4）15　ソビエト
引き分け

試合経過　優勝争いにひびく大事な一戦。開始早々いきなりウサティが警告をとられる荒れ気味のスタート、東独は5分エンゲールのプールを口火に10分までに連続4ゴール、絶対の優勢となった。

【ソビエト】	得
GK イチエンコ	0
GK シスチエフ	0
FP チカラエン	1
FP マキシモフ	2
FP クラフゾフ	1
FP ウサティ	3
FP クリモフ	1
FP ラグティン	1
FP クレフ	0
FP マショリン	3
FP オガネゾフ	3
FP レザノフ	0
7MT (1)	15

【東ドイツ】	得
GK ボイクト	0
GK ヴェイス	0
FP ガンショフ	1
FP ロスト	1
FP ハイルデブラント	0
FP ボヘーム	3
FP ラッケンマッハ	1
FP エンゲル	2
FP ピエック	0
FP カエルレルト	7
FP ローズト	0
FP シュミット	0
7MT (3)	15

ソビエトは12分ウサティがやっと1点をあげたが東独もガンショフのゴールで4点差。ソビエトはこのあとじわじわと詰め寄ったが22分4—5まで、調子にのる東独は後半4分までに再び連続4ゴールして9—4とはなし、主導権を確実に握ったかとみえた。

ところが、5分ハイルデブラントが退場されたのを境に、ソビエトが盛り返し9分には8—9、ここで今度はマショリンが退場を命じられ東独はすかさず加点、19分13—10、22分14—11と優位を守った。ソビエトもよく粘り23分マショリン、26分クリモフと追いかけたが、東独は27分ロストのゴールで15—13、五千近い満員の観衆も勝利を確信した。

しかし、ソビエトは驚くべきことに28分マショリンで14—15、タイムアップ2秒前ガンショフが起死回生のシュートを突き刺して引き分けに持ちこんだ。

【C組順位】①東ドイツ2勝1分(得失点差36、総得点81)②ソビエト2勝1分(36、80)以上準決勝リーグへ③日本1勝2敗④アメリカ3敗

惜しかったブルガリア戦

9～12位決定リーグ

第1戦(遠征第8戦)・ブルガリア(ヨーロッパ第3群代表)との試合は3月5日午後4時からヴィスマール・アリーナで行われた。審判＝ヘルメイコ、ヤボルスキー(ポーランド) 観衆＝一千九百二十(定員二千)

ブルガリア 23（13—12、10—10）22 日本

【ブルガリア】	(身長)	得
GK S・ジョルジェフ	180cm	0
GK ラザロフ	179	0
FP ブラスチェフ	196	0
FP A・アンゲロフ	182	0
FP クリストフ	180	0
FP G・ジョルジェフ	177	0
FP アラドスチョフ	169	8
FP ナッチェフ	176	9
FP マツスキー	180	0
FP デウチノフ	181	2
FP G・アンゲロフ	181	1
FP ステファノフ	180	3
7MT (2)		23

得	【日本】
0	GK 本田
0	GK 柳川兄
4	FP 中井
6	FP 藤中
6	FP 佐藤
1	FP 菊池
0	FP 大江
0	FP 花輪
1	FP 蒲生
0	FP 村田
1	FP 柳川弟
3	FP 木野
22	(3) 7MT

試合経過 すさまじい試合だった。両チームとも10位内に食いこむためにはこの一戦をどうしても落とせないし、ここで勝って波にのりたいところでもあった。

はたしてスタートからつばぜりあいとなり。前半2点差がついたのは5分ブルガリアが3—1、15分8—6、19分10—8と日本がリードした計3回だけ、あとはすべて1点差の白熱。二転三転、9たび同点(12—12)のあと、29分ブルガリアはアラドスチョフのゴールで1点差をつけ前半を終えた。

後半、日本は2分木野(湧永薬品)がゴール、13—13とし、3分藤中で14—13と6回目の先行、このアヘッドを巧くつないで10分木野で16—14、11分菊池で17—14とこの試合初めて3点差がついた。

ブルガリアはそのあと7MTで1点を返したが、日本も14分蒲生で18—15と優位をつづけた。残り15分のうち、ここからの5分間がヤマとみられたが、日本は15分、18分に相手シュートを許し、22分には19—19と追いつかれてしまった。

23分藤中のゴールで先行、すぐにタイとされながらも25分には柳川(21—20)、27分には藤中(22—21)と僅差を死守していたのだが、ブルガリアも残り2分、最後の力をふりしぼって反撃、28分ステファノフが同点(22—22)シュートを決め、残り1分を切ったところでナッチェフが劇的な決勝ゴールをあげて逆転勝ちを演じた。

日本は、後半なかば一気にスパートしたのはよいが、終盤疲れがのぞきせっかくのリードをもちこたえられなかった。タイスコア14回、日本の先行9回、ブルガリアの先行6回。シュート数はブルガリア43、日本48。

北川監督の話 ベンチワークの失敗が悔やまれる。後半なかば3点リードした時、もう少しキープするなどして相手の焦りを誘うべきだったが、同じペースで進めたため反撃を許してしまった。

ブルガリアとは史上初めての対戦で、いろいろ情報を集めたが、それ以上に彼らは日本を研究していたようだ。なんとか盟友ブルガリアを9位に引きあげようと東欧諸国が大いに協力したらしい。ポイントゲッターの一人アラドスチョフは1m69、70Kで俊敏だった。

猛迫も終盤に力つきる

第2戦・西ドイツ(ミュンヘンオリンピック6位、前回5位)との試合は3月7日午後4時からマグドバーグ体育館で行われた。審判＝ジーベルト、ジンガー(東ドイツ)、観衆＝二千四百(定員三千)

西ドイツ 30（15—12、15—12）24 日本

【西ドイツ】	(身長)	得
GK ドグス	187cm	0
GK メイヤー	186	0
FP ヴェルツ	183	2
FP エムリック	194	0
FP ブッヒャー	178	1
FP ベステベ	184	9
FP シュミット	195	2
FP モーラー	186	2
FP ヴェーネルト	191	3
FP グローニング	196	3
FP スペングラー	181	1
FP デッカルム	193	7
7MT (3)		30

得	【日本】
0	GK 本田
0	GK 柳川兄
11	FP 藤中
1	FP 中井
7	FP 佐藤
0	FP 大江
2	FP 菊池
0	FP 蒲生
0	FP 村田
2	FP 柳川弟
0	FP 木野
1	FP 花輪
24	(4) 7MT

試合経過 日本はどの試合も序盤は互角に試合を進める。この日もヴェステベの巧技にたえず先行されながらも9分5—5、11分6—6とタイ、しかし地力に優る西独は12分ベステベが7MTを決め13分ヴェルツ、14分ヴェーネルトと連続ゴールを決めてようやく優位に立った。

この点差はなかなか縮らず、逆に前半終りごろから4点差に開き、後半4分には17—13とスコアを変えた。

しかし、日本は5分佐藤、7分柳川弟で15—17、7分30秒7MTを奪われたが8分佐藤、9分藤中で17—18と迫り、大いに場内は盛りあがった。

西ドイツはこのあとヴェーネルトの活躍で15分20—17と余裕をとりもどし、日本もここで力つきた感じとなり、藤中、中井で散発的

にポイントをあげただけ、20分20—23、25分21—27と差をつけられ敗れた。

西ドイツにはシュミット、ヴェステベ、カーター（以上グンメルスバッハ）、エムリッヒ、ブッヒャー（以上ギョッピンゲン）、メイヤー、ムンク、クラマー（ダンケルセン）、ヴェルツ（キール）ら来日組が多く元気なプレーを見せていたが31才のシュミットは往時の鋭さがさすがに消え、ムンクは負傷で1試合しか出なかった。シュート数は西ドイツ55、日本58。

北川監督の話　西ドイツは8強から転落し気落ちしているかと思ったが、なんとか一桁のランクを確保すべく、闘志をみなぎらせており、前日の惜敗でガックリきた我々と、やや気持ちの上で差があった。

なんとか、調子の波へ乗せようと企ったのだが実らなかった。それが追い詰めても、すぐに引きはなされることになった。

また、日本選手にはシュミット恐怖症があり、要所だけしか出てこないのだが振りまわされた。特にシュートとみせかけ、サイド、ポストへ廻すという勝つためのゲームメーカーとなった彼の〝変身〟ぶりにやられた。

日本、ついに追い抜けず

第3戦・スウェーデン（ミュンヘンオリンピック7位、前回6位）との試合は3月9日午後5時からデゾー市スポーツホールで行われた。審判＝シデア、シルリジアーヌ（ルーマニア）、観衆＝二千五百五十（定員三千）

スウェーデン　28（14—10、14—11）21　日本

【スウェーデン】		(身長)	得	【日本】		得
GK	グスタフソン	178cm	0	GK	本田	0
	カールソン	181	0		柳川兄	0
FP	ビョ・アンデルソン	196	6	FP	藤中	2
	ボー・アンデルソン	178	2		中井	4
	フィッシェルストローム	180	5		木野	4
	ハンソン	179	1		佐藤	7
	セーゲルスタット	187	3		柳川弟	2
	ヤンソン	189	0		花輪	0
	ヨンソン	176	3		蒲生	1
	マルシニアク	180	0		菊池	1
	ソーデバーグ	180	4		村田	0
	ヴェストリング	184	4		夏目	0
		(1)	28		7MT	21 (3)

試合経過　日本は5分佐藤、6分中井、8、10分佐藤などで先行したが、スウェーデンは12分7MT（ヨンソン）で5—4と逆転、日本は13分中井でタイとしたものの、その後は、ついに最後まで追い抜くことができなかった。

リードを奪ったスウェーデンは再三1点差まで追いあげられたが連続失点するとすぐに態勢を立直せたことがよく、特に25分菊池のゴールで11—10と迫られたあとフイッシェルストロームの機敏な動きで13—10と開いたのは大きかった。

後半、日本の反撃が期待されたが、スウェーデンは一気に大勢を決すべくスパート、この策があたって4分16—11、ペースを握った。

日本に5点差は重荷となり、しかも8分から連続6ゴールを失って12分21—12、勝負の先がみえた。

スウェーデンでは、46年9月に来日した両アンデルソン、フイッシェルストローム、セーゲルスタット、ハンソンが健在だった。シュート数はともに43。佐藤は通算40ゴールをあげ、ビルトロン（ルーマニア）にこの時点で3点差をつけたのだが—。

上位進出への可能性見出す

北川監督の話　最終戦でもあり全力を振りしぼったのだが、巨人のビョ・アンデルソンのシュートをさばき切れず、このほか右サイドから射つとみせかけ、左サイドへ大たんなパスを通して射ちこんでくるプレーにかなりポイントを奪われた。

本大会の日程を終わってみて、ベストエイト進出の夢をまたしても破られ、ミュンヘンでの11位も確保できなかった責任を痛感している。

しかし、若い全日本は、これまでにない収獲を身につけたと確信できるし、上位6ケ国の壁は突き破れぬとしても7〜12位の実力は同等といってよく上位進出への可能性を見出したといえる。若手も「対等に戦える」という感触を得たと思う。

ヨーロッパチームは、日本に対しては、強引な突進で日本の守りを押しこむのが最良の戦術と心得ているようで、日本でなら当然「チャージング」と思えるプレーをしばしば用いられ、ディフェンスがひるむスキをポストから得点されたり、逆に7MTをとられるなどした。

第2戦以降、この点を抗議したらいくらか正されたが、ゲームスタミナと守備力の差は、いぜん日本の課題である。

この点を、ひたむきに努力すれば攻撃技術や戦術はある程度のレベルに達しているのだから、希望は大いにある。今後10年の努力と年月をかければ、日の丸をあげることも可能だ。

佐藤が、個人得点2位となったが、アンダー、サイドなど身体を充分使い切ったら巧味がこの活躍となったもので、今後の一つの指針になると思う。

〇……その他の試合……〇

西ドイツ　20（8—9、12—9）18　スウェーデン

＜得点＞西ドイツ＝デッカルム、ブッヒャー各6、ベステベ5、ヴェーネルト、グローニング、ヴェルツ各1

スウェーデン＝ハンソン8、フイッシェルストローム3、マルシニアク2、アンデルソン、アンデルソン、ヤンソン、オルソン、ヴェストリング各1

スウェーデン 21（12－8／9－11）19 ブルガリア

＜得点＞スウェーデン＝アンデルソン5、アンデルソン、ハンソン各4、フイッシェルストローム3、セーゲルスラット、ヨンソン各2、ヤンソン－

ブルガリア＝アラドスチョフ7、ナッチェフ5、マツスキー3、ブラスチェフ2、ジョルジェフアスパルチョフ各1

西ドイツ 22（11－6／11－7）13 ブルガリア

＜得点＞西ドイツ＝クラマー、ベステベ、ヴェーネルト各4、デッカルム、シュミット各3、グローニング2、エムリック、モーラー各2

ブルガリア＝アラドスチョフ10、ブラスチェフ2、コバチェフ1

【順位】⑨西ドイツ3勝⑩スウェーデン2勝1敗⑪ブルガリア1勝2敗⑫日本3敗

木野、初の50試合出場

○……木野実選手（湧永薬品、FP）が、日本選手としては初の公式国際試合出場「50回」を記録、日本協会は近く表彰する。第1戦は立教大時代41年10月3日の対中国戦（東京駒沢屋内球技場）。今大会のスウェーデン戦（5頁参照）までで通算177点をマークしている。木野の記録を追うのは本田洋（大阪イーグルス、GK）の41。

人気高い日本チーム

○……日本チームの、ヨーロッパにおける人気は相変らず高い。

この大会でも、地元紙は、空港到着（2月25日）から、初練習、市内見物など日本選手の動きを写真入りでつぶさに伝えていた。

〃小柄〃で知られる日本が、初めて192cmの蒲生（中大）を送りこんだのも話題。しかし、「アクロバット・ノダ」（野田＝大同製鋼）が姿を消したのは、関係者やファンを失望させたようで、「フルエントリー（16人）ならともかく、野田を欠いて13人とはどういうわけか？」とたずねる新聞記者もいた。

全日本、元気に帰国

全日本男子（林達夫団長ら15人）は3月13日午後5時22分羽田空港着の日航機で帰国、日本協会・田村会長、徳永副会長、荒川理事長、泉全日本実連理事長ら多数の関係者から出迎えをうけた。同チームは4月7日京都府立体育館でスタジオン・IF（デンマーク）と対戦する。

佐藤、惜しくも得点王逃す
藤中も5位に

日本・佐藤要二選手（FP、本田技研鈴鹿）が、惜しいところで得点王を逃がした。優勝争いとともに、大会後半ファンの関心を集めたのは個人得点レース。地元紙も連日記録をかかげ、興味をあおったが、予選リーグ（第3日）を終ってビルトラン（ルーマニア）23、佐藤（日本）20、アセルソン（アイスランド）18の順。後半はアイスランドの敗退から、ビルトラン×佐藤の一騎打ちとなり、第4日 ビルトラン28、佐藤26 第5日 ビルトラン36、佐藤33 そして最終戦、佐藤は7ゴールして40点。この時点で3点をアヘッドしたが、ビルトランは決勝の前半、早くも5点をあげて佐藤を上廻り、結局43点で得点王となった。2位以下は佐藤40、アラドスチョフ（ブルガリア）マキシモフ（ソビエト）31、藤中（日本、大同製鋼）各30の順。得点のうち7MTを抜くと①ビルトラン40②藤中28③佐藤26となる。7MTの最多得点者はマキシモフ（ソビエト）20。

なお、日本選手ではかつて第5回大会で竹野奉昭選手が予選リーグD組で、第6回大会で木野実、飯端寿昭両選手が予選ラウンドの最高得点者になったことがあるが、佐藤のような通算得点での好成績は初めてである。

モントリオールの試合方式

IHF（国際ハンドボール連盟）は、今大会期間中に開いた理事会で、モントリオールオリンピックのハンドボール競技について検討、男子12、女子6ケ国による運行を確認したほか、男子については、12ケ国を6ケ国づつ、二つの予選リーグに分け、各組同位者同士の対戦で、1位から12位を決める方式を採ることに内定した。

女子は、6ケ国によるリーグ戦の予定。

出場国に関しては、男子はカナダ（開催国）、ルーマニア（今回優勝）のほか、残る10ケ国をヨーロッパ7、アジア、アメリカ、アフリカ各大陸1に分けて予選する。

女子は、カナダ以外は、来年の第6回世界選手権上位5ケ国となる公算が相変らず強い。

来年1月に世界学生

第6回世界学生選手権（男子）は、来年1月4日から12日までルーマニアに16ケ国を集めて行われることが明らかになった。参加については全日本学連が検討中。

長期計画への第1歩
～悲観材料でない「12位」～
必要な「全日本」の伝統

▽……前回(昭45)が10位、ミュンヘンオリンピック(昭47)が11位、そして今回が12位……。
　期待されるたびに、むしろランクが一つづつ下っていく全日本男子だが、その周辺は〝世界の壁〟を認める一方で、けっして悲観ムードがただよっているわけではない。

▽……ランクはたしかに落ちているが、宿願の「ベストエイト」との距離は、参加のたびに縮められており、コーチングスタッフや選手たちも、その手ごたえを感じとって帰国している。
　無形の実力を、着実に全日本は身につけているのである。

▽……14年前、初参加したところの日本は、ともかく1勝するのが課題であった。それが、8年前からは、明確に「ベストエイト」という目標を置き、そのベンチワークも「善戦から勝利」へとレベルアップしている。
　日本協会の強化施策も「ナショナルチームの底辺拡充」(荒川理事長、本誌107号)というユニークな見解のもとに進められることになった。

▽……今回、桧舞台へ送りこんだ陣容は若手が多く、一部では「アジア予選さえ危ない」と不安の声もおきていたが、ともかく目いっぱいの戦いぶりを示した。荒川理事長は「この自信、必ず実る時がくる」と云っており、第一線層の厚味を増すため、今後も積極的な新戦力登用をにおわせている。

▽……しかし、楽観的な見通しばかりでないことも事実だ。
　東欧勢の驚異的な進出は上位独占一歩手前まで来ており、これまでベストエイトを狙う国は日本をはじめ新進国だけだったが、今後は西ドイツ、スウェーデンなど巻き返しを狙う伝統国も加わり、いっそうその争いは熾烈となろう。上位との距離短縮は、同時に、すさまじいばかりのつばぜりあいであり、強豪の多党化なのだ。

▽……この競争を勝ち抜くには豊富な国際経験を欠かせない、とは衆目の一致するところ。
　渡辺IHF理事(日本協会副会長)の話によれば、IHF筋の専門家たちは、今回「日本はベストメンバーで来たのか?」と云っていたそうだ。思い切ったメンバー一新への驚きであったのか、歴史の浅さへの皮肉であったのか――。

▽……系統的、計画的な強化対策も必要だ。北川監督は「ベストスリーに入るにはひたむきな努力をつづけても最低あと10年はかかる」と云っているが、日本協会もじゅう分それを承知で長期計画をねり、ナショナルチームの伝統づくりをはじめている。ナショナルチームのプロジェクト化などはその一例だ。

▽……なにがなんでもミュンヘンへといった4～5年前のムードから、一歩脱皮してじっくり腰を落ちつけた頂点強化。残念ながらこの面で、斯界には〝伝統〟も〝過去〟もない。若手起用と国際経験(キャリア)。一見裏はらに見えるこの二つの長短を一つにまとめ、「全日本」の歴史をつくりあげようとする荒川理事長の構想は、今ようやく第一歩を踏み出したところである

国際親善試合

世界選手権アジア予選を終えた全日本は2月19日から25日までユーゴに滞在。ユーゴナショナルと2試合(公式国際試合)、世界選手権終了後の3月12日には西ベルリンで「ベルリンSV92」クラブと親善試合を行った。

ユーゴに2敗

遠征第3戦、ユーゴとの試合は2月22日ベオグラードのピオニール体育館で行われた。観衆＝九百

ユーゴ 36（21－16、15－8）24 日本

	【ユーゴ】	得	【日本】	得
GK	ゾルコ	0	本田	0
GK	アルスラナジッチ	0	柳川兄	0
FP	ペリック	3	木野	3
FP	ファイフリッチ	1	花輪	0
FP	ポポビッチ	6	大江	1
FP	ブガルスキー	2	藤中	7
FP	ラジエノビッチ	3	中井	0
FP	ホルバト	5	佐藤	3
FP	ポクラヤク	3	蒲生	5
FP	ミルヤク	4	菊池	3
FP	ラザレビッチ	6	村田	1
FP	ラブルニッチ	3	夏目	1
7MT		(2) 36		24 (0)

▽交代・日本FP柳川弟（得0）

◇

遠征第4戦、ユーゴとの第2戦は2月24日パンチェボ体育館で行われた。観衆＝二千三百

ユーゴ 27（15－7、12－10）17 日本

	【ユーゴ】	得	【日本】	得
GK	ゾルコ	0	本田	0
GK	ニムス	0	柳川兄	0
FP	ペリック	1	中井	1
FP	ポポビッチ	5	藤中	2
FP	ラブルニッチ	5	佐藤	4
FP	ラザレビッチ	1	木野	3
FP	パビヤビッチ	3	大江	0
FP	ブガルスキー	3	花輪	0
FP	ミルヤク	0	蒲生	4
FP	ホルバト	3	菊池	3
FP	ポクラヤク	5	柳川弟	0
FP	ミスコビッチ	1	村田	0
7MT		(2) 27		17 (4)

▽交代・日本FP夏目（得0）

◇

遠征第11戦（最終戦）は3月12日西ベルリン（西ドイツ）スポーツホールで、現在ベルリン地域リーグ首位を走り、全国リーグ入りを期待されている「ベルリンSV92」クラブと対戦した。観衆＝七百

日本 15（7－6、8－9）15 ベルリンSV92
引き分け

◇

▽遠征第1戦　日本14－14イスラエル、▽第2戦、日本18－14イスラエル（＝本誌前号詳報）

公式国際試合、64戦に

日本協会の男子公式国際試合（7人制）は、今回の遠征を終えて、通算64戦23勝4分37敗となった。

本誌は次号にも「世界選手権特集」を予定しています。

ルーマニア2連勝飾る（4度目）



東独2位、ユーゴは3位

予選リーグ

◇A組

チェコ 25（14—9 11—6）15 アイスランド

デンマーク 12（5—6 7—5）11 西ドイツ

チェコ 16（9—9 7—4）12 デンマーク

西ドイツ 22（12—9 10—7）16 アイスランド

チェコ 17（11—4 6—7）11 西ドイツ

デンマーク 19（9—7 10—10）17 アイスランド

【順位】①チェコ3勝②デンマーク2勝1敗＝以上準決勝リーグへ③西ドイツ1勝2敗④アイスランド3敗

◇B組

ルーマニア 18（8—8 10—6）14 ポーランド

スペイン 15（6—7 9—7）14 スウェーデン

ルーマニア 21（9—3 12—8）11 スペイン

ポーランド 20（14—5 6—5）10 スウェーデン

ポーランド 21（10—9 11—6）15 スペイン

スウェーデン 20（11—10 9—9）18 ルーマニア

【順位】①ルーマニア2勝1敗（得失点差12、総得点57）②ポーランド2勝1敗（12、55）＝以上準決勝リーグへ③スウェーデン1勝2敗（得失点差マイナス9）④スペイン1勝2敗（マイナス15）

◇D組

ユーゴ 25（14—10 11—7）17 ブルガリア

ハンガリー 30（18—5 12—5）10 アルジェリア

ユーゴ 35（18—5 17—7）12 アルジェリア

ハンガリー 19（10—8 9—7）15 ブルガリア

ブルガリア 23（13—7 10—9）16 アルジェリア

ユーゴ 21（12—8 9—10）18 ハンガリー

【順位】①ユーゴ3勝②ハンガリー2勝1敗＝以上準決勝リーグへ③ブルガリア1勝2敗④アルジェリア3敗

○……西ドイツ（A組）、スウェーデン（B組）が敗退する波乱がありベスト8のうち七つを東欧勢が占めた。

西ドイツ、スウェーデンとも永くハンドボール王国を謳った伝統がある。しかし一九六〇年代の後半から東欧諸国の抬頭に押され、ついに8強の座からも追われてしまった。スウェーデンはスペインに敗れたのが大誤算。スペインはとび抜けたゲッターはいないが粒揃いで、後半7分8—11から一気に4ゴールして逆転、そのあと三たび同点のせりあいから23分アルテイゼンのあげた勝ちこした点を大事に守って大番狂せを演じた。

○……ポーランドの活躍も目立った。緒戦でルーマニアに善戦、その自信からか、あとの2試合に完勝、第3回（一九五八）以来、久々の8強入りを果たした。エース、クレムペル（192cm）と並ぶポイントゲッター、ディボールは172cm、71Kで日本選手とあまり変わらない。

○……追われる立ち場のユーゴはハンガリーに苦しんだ。後半10分12—12まではむしろ押され気味、そのあと7MT（ラデノビッチ）を決めてから波にのり逆転勝ちしたが、オリンピックの時より、ハリがないという声が強かった。

前回優勝のルーマニアは余裕たっぷり。2勝をあげ、スウェーデンの脱落を知ると、スウェーデン戦はあまりムリをせず。この〝1敗〟はその後の優勝争いにはまったく無関係で、いかにも老かいなコンディショニングである。スウェーデンはこの1勝で9位戦へ浮上したのだからスペインがとばっちりを受けたことになる。

準決勝リーグ

◇1組

ポーランド 19（8—10 11—6）16 チェコ

ルーマニア 20（11—10 9—1）11 デンマーク

ポーランド 14（8—4 6—5）9 デンマーク

ルーマニア 20（9—7 11—6）13 チェコ

ルーマニア×ポーランド（18—14）、チェコ×デンマーク（16—12）は予選リーグの記録を適用

【順位】①ルーマニア3勝②ポーランド2勝1敗③チェコ1勝2敗④デンマーク3敗

○……ルーマニアの力がやはり安定していた。注目されたチェコ（ミュンヘン2位）も、立ちあがりいきなり0—4とされ、つねにこのハンデがのしかかって26分6—9としたのが精いっぱい。後半は一方的ともいえる経過だった。

予選の好調をもちこしたのはポーランド。チェコ戦なども完全に相手を上廻る出来で完勝した。

〝西側〟の与望をになったデンマークは力及ばず、東西の差がくっきりと出た。スタディオンのメンバーで近く来日のJ・フランセンはこの大会通算12点（6試合）。

◇2組

東ドイツ 17（7—6 10—4）10 ハンガリー

ユーゴ 18（7—7 11—8）15 ソビエト

東ドイツ 19（9—9 10—8）17 ユーゴ

得	【東ドイツ】		【ユーゴ】	得
0	ボイクト	GK	アルスラナジッチ	0
0	ヴェイス	GK	ゾルコ	0
5	ガンシュフ	FP	ポポビッチ	3
0	P・ロスト	FP	ラブルニッチ	5
3	カエルレルト	FP	ホルバト	4
0	ハイルデブラント	FP	ミルヤク	3
3	ボヘーム	FP	ラザレビッチ	1
5	ラッケンマッハ	FP	ポクラヤク	1
1	エンゲル	FP	ペリッチ	0
0	ピエツク	FP	ミスコビッチ	0
0	シュミット	FP	ブガルスキー	0
2	ロスト	FP	ラジェノビッチ	0
19	（2）	7MT	（6）	17

ソビエト17（8―7、9―8）15ハンガリー

東ドイツ×ソビエト（15―15）、ユーゴ×ハンガリー（21―18）は予選リーグの記録を適用

【順位】①東ドイツ2勝1分②ユーゴ2勝1敗③ソビエト1勝1分1敗④ハンガリー3敗

○……事実上の決勝と目された東独×ユーゴはさすがに激戦、四千のファンを興奮させた。

試合は東独が先行、ユーゴは前半なかばいちぢリードしたが、すぐに追いこされ、東独は29分10―6と4点差をつけた。

後半、ユーゴの反撃はすさまじく、5分10―10としてからはまったく互角、21分15―15と予断を許さなかった。

しかし、東独は22分ボヘーム、24分エンゲルで17―15と優位に立ち、このあとエース、ガンショフが2分退場というスリリングな場面を迎えたがよく守り、7MTで17―16と迫はれたあとも果敢な攻めで2点をあげ、オリンピックにつづく制覇を企てたユーゴの大野望をたち切った。

○……ユーゴ×ソビエトは一進一退からユーゴは前半なかばに先行、23分には10―5とした。ソビエトが反撃を実らせたのは、前半終了まぎわから後半開始直後で、2点差（9―11）まで詰めたが、この日はもう一つ守りが固まらず11分再び10―15とはなされ、20分13―15としたものの及ばなかった。ユーゴの試合運びの巧さがソビエトを制した一戦である。

順位決定戦

7位決定戦は3月9日午後4時から東ベルリンスポーツホールで行われた。審判＝シマノビッチ、ヴァルシック（ルーマニア）、観衆＝四千

ハンガリー22（13―6、9―9）15デンマーク

得	【デンマーク】		【ハンガリー】	得
0	ラウリッツエン	GK	ホルバース	0
0	ヨルゲンセン	GK	バルタロス	0
5	D・ニールセン	FP	ブデイ	2
0	ボエッヒヤー	FP	K・バス	2
4	B・ラルセン	FP	ズベール	3
3	ボック	FP	ウニヤドクエルティ	3
1	フランドセン	FP	スジラギイ	1
2	フリヨーム	FP	コバクス	3
0	ムンカゲール	FP	シモ	3
0	ポールセン	FP	S・バス	1
0	ステンスカエール	FP	グバニイ	4
0	P・ニールセン	FP	コクシス	0
15	（2）	7MT	（1）	22

チェコ（五輪2位）5位に終わる

5位決定戦は3月10日午後4時から東ベルリンスポーツホールで行われた。審判＝カールソン、ラルソン（スウェーデン）、観衆＝四千二百

ソビエト26（14―11、12―13）24チェコ

得	【ソビエト】		【チェコ】	得
0	イチエンコ	GK	パベルカ	0
0	シスチェフ	GK	パッカ	0
1	チカラエン	FP	サトラパ	0
10	マキシモフ	FP	ヤリイ	4
4	パノフ	FP	ルコシック	4
3	クラウゾフ	FP	ハベル	4
3	ラグティン	FP	ベネス	1
2	マショリン	FP	スカーラ	3
1	オガネゾフ	FP	ハンスル	0
2	ガシ	FP	コネツニ	4
0	プラクホチン	FP	マイクス	4
0	レザノフ	FP	クトブルトニック	0
26	（8）	7MT	（6）	24

ポーランド、初の4位

3位決定戦は3月9日午後6時から東ベルリンスポーツホールで行われた。審判＝レイチェル、テテン（西ドイツ）、観衆＝四千一百

ユーゴ18（10―9、8―7）16ポーランド

得	【ポーランド】		【ユーゴ】	得
0	スジムザック	GK	アルスラナジッチ	0
0	ロスミアレック	GK	ゾルコ	0
1	スゾルク	FP	ラザレビッチ	1
1	ククタ	FP	ラブルニッチ	2
3	クレムペル	FP	ポクラヤク	1
1	レク	FP	ミルヤク	2
5	デイボル	FP	ポポビッチ	5
0	メルセル	FP	ラジェノビッチ	3
2	グミイレク	FP	ホルバト	4
2	パナス	FP	ブガルスキー	0
1	アンツザック	FP	ファイフリッチ	0
0	カルジンスキー	FP	ミスコビッチ	0
16	（3）	7MT	（1）	18

決勝戦

3月10日午後5時45分から東ベルリンスポーツホールで行われた。審判＝オブダル、ロデイル（デンマーク）、観衆＝四千二百

ルーマニア14（7―8、7―4）12東ドイツ

得	【ルーマニア】	（身長）		【東ドイツ】	得
0	ペヌ	191cm	GK	ボイクト	0
0	ディンカ	182	GK	ヴェイス	0
2	キクシト	194	FP	ガンショフ	1
1	ガツ	177	FP	P・ロスト	1
7	ビルトラン	194	FP	ハイデルブラント	2
2	コスマ	179	FP	ラッケンマッハ	1
0	リク	186	FP	エンゲル	1
0	ダン	186	FP	カエルレルト	4
0	ボワナ	185	FP	ボヘーム	2
0	グネスク	197	FP	ピエック	0
0	ツドーシェ	188	FP	シュミット	0
2	ストックル	189	FP	J・ロスト	0
14	（2）		7MT	（2）	12

○……予想どおりの対決。決勝の顔合せが2回連続というのは史上初。前回（一九七〇）は第2延長の末ルーマニアが勝っている。

東独は0―2の劣勢を12分3―2とはね返し勢いにのるかとみえたが、ルーマニアははなされず、21分再び6―4と優位。しかし24分リクが5分間退場を食い、東独はすかさず3ゴールして逆転した。

○……後半4分、東独は初めて9―7と2点差をつけたが、ルーマニアの闘志はすさまじく5分ストックルのゴールを口火に15分までになだれのような猛襲で5点連取、12―9とした。ここでまたツドージエが5分間退場を命ぜられ、観衆の熱狂は最高潮に達し、攻める東独、守るルーマニアともに必死の展開となったが24分11―13まで。28分ルーマニアが1点を加えたあと、またしても退場者を出し、東独の奇跡的な追いこみが成るかとみえたがタイムアップ、ルーマニアの偉業が成った。

ルーマニアに五輪出場権

IHF（国際ハンドボール連盟）は、大会終了後、ルーマニアはこれで自動的にモントリオールオリンピック（昭51）出場権を得た、と発表した。同大会の男子は12ケ国で争われ、これでカナダ（開催国）ルーマニア2ケ国の出場が決定。

（カット写真）優勝国にワールドカップとともに与えられる鉄製トロフィー。高さ85cm、重さ25Kでスペインの彫刻家C・ロサダ氏の作品。今大会から新制定。

今号の世界選手権試合経過（2〜9頁）はスポーツエコー紙（東ドイツ）、レキップ紙（フランス）、ザ・ヨミウリ（英文読売）、ジャパンタイムスなどの記事を編集部でまとめたものです。

韓国（ジュニア選抜）日立から1勝
日韓女子社会人交流戦

第3回日韓女子社会人交流戦は韓国ジュニア選抜（洪淳泰団長、李峰一監督ら16人）を迎えて、3月13日から17日までの5日間、全国選抜女子大会に出場中の実業団5チームが名古屋市体育館で対戦して行われた。

高校の新卒業生を中心とした韓国ジュニア選抜は、若さにまかせたスピードに見るべきものはあったが、日本の多彩な攻撃と変化のある守りにとまどい、結局、第3戦で日立栃木（全日本総合3位）を降しただけで終った。これで通算成績は日本側の14戦8勝5敗1分。一行は3月19日羽田空港から帰国した。

第1戦・日本ビクター（茨城・全日本総合1位）との試合は3月13日午後5時10分から奥村方志、稲石三二両氏審判で開始。

日本ビクター 20（9－3 11－1）4 韓国ジュニア選抜

○……韓国は緒戦とあって動きがまったく固く、しかも守りでは組織的なプレーがほとんどみられず序盤からビクターが蓮見、額賀らで押しまくった。

得	【日ビ】		【韓J】	(身長)	得
0	鈴木	GK	金賢淑	163cm	0
0	渡辺	GK			
2	池田	FP	李京淑	159	0
0	高野	FP	金貞昊	112	0
2	谷沢	FP	李相玉	167	1
2	阿部	FP	金福順	164	1
3	蓮見	FP	張恵玉	161	0
4	額賀	FP	金玉子	162	0
3	加藤	FP	姜京宜	162	2
2	滝	FP	金淑子	160	0
0	川崎	FP	黄賢卒	159	0
2	穂積	FP	金竹慶	159	0
20	(1) 7MT		(0)		4

15分2－7から姜のゴールで3－7とし反撃するかにみえたが、そのあとは攻撃面でもコンビネーションがとれず、後半11分まで無得点に終った。

○……日本ビクターは後半も手をゆるめず、30秒加藤の得点を口火に速攻を連発させ、10分14－3とし大勢を決めた。

韓国は、ビクターの速い攻撃展開と、フェイントプレーに守備網をやすやす破られ、よいところがなかった(川島克之・大会審判員)

重機、拙攻演じ苦しむ

第2戦・東京重機工業（東京・千葉国体1位）との試合は、14日午後5時15分から朴千柞（韓国協会）、浅野克彦両氏審判で開始。

東京重機工業 10（4－3 6－4）7 韓国ジュニア

得	【重機】		【韓J】	得
0	三紙	GK	金(賢)	0
0	杉原	GK		
5	古佐原	FP	李(京)	1
1	市川	FP	金(貞)	0
0	南地	FP	李(相)	0
2	折口	FP	金(福)	1
0	村上	FP	張	0
0	渡辺	FP	金(玉)	0
2	鈴木	FP	姜	5
0	波多腰	FP	金(淑)	0
0	山口	FP	金(竹)	0
0	町田	FP	崔綿姫	0
10	(2) 7MT		(1)	7

○……韓国は、前日の試合経験から速さの勝負をさけ、マイボールになると、慎重なキープから、重機ディフェンスをゆさぶりにかかった。

この作戦は一応成功、重機の先行を許しながらも追いすがり1点差で後半に反撃の望みを残した。

一方の重機は、攻撃力ではるかに相手を上廻りながら、ノーマークの得点機を再三はずす拙さから後半10分まで3－4のまま。ようやく11、14分の7MTを古佐原が決めて6－3としたが、韓国もよく粘り16分姜、17分李(京)、19分7MT（姜）で6－6に追いついた。

○……残り5分、どうにか調子をとりもどした重機は鈴木のゴールでリードを奪い、古佐原の巧技を中心に1分おきに得点、韓国の攻撃を1点に封じて押し切った。

(田中滋章・大会委員)

終盤リード奪った韓国

第3戦・日立栃木（全日本総合3位）との試合は15日午後5時24分から朴千柞、西川勤也両氏審判で開始。

韓国ジュニア選抜 10（5－5 6－3）9 日立栃木

得	【日立】		【韓J】	得
0	粂谷	GK	金(賢)	0
0	高橋	GK		
0	鈴井	FP	李(京)	0
0	小林	FP	姜	3
0	土屋	FP	金(淑)	0
1	富田川	FP	李(相)	4
1	桜庭	FP	崔	0
3	山井	FP	張	0
4	鈴木昌	FP	金(福)	2
0	田村	FP	金(玉)	1
0	伴	FP	金(貞)	0
0	鈴木幸	FP	金(竹)	0
9	(2) 7MT		(2)	10

○……韓国は残り3分、2点をリードしたところで主力の姜が反則で2分間退場、ピンチとなり、23分山井に割りこまれて10－9、24分10秒のシュート失敗から、日立の逆襲をうけたが、懸命に守り切り、待望の1勝をあげた。

韓国は日本の大学A級程度の実力だが、日本の試合運びにだいぶ馴れた。前、後半各1回リードされた場面も自分のペースを見失はなかったのがよく、直接の勝因としては後半17分8－8、12分9－8の両場面でスピード豊かなミドルを決めた李（相）の活躍があげられる。

日立は、個人技がもう一つチームプレーにまとまらず、後半5－6から8分7MT(鈴木昌)、11分山井で7－6と逆転し、そのままリードを保ちつづけるかと思えたが、韓国の粘りにあってしまった。

（杉山 茂）

ブラザー、辛くも勝つ

第4戦・ブラザー工業（愛知、全日本総合4位）との試合は16日午後4時20分から朴千柞、西川勤也両氏審判で開始。

ブラザー工業 11（7－3 4－6）9 韓国ジュニア選抜

得	【ブ工】		【韓J】	得
0	井戸田	GK	金(賢)	0
0	山本	GK		
0	藤浪	FP	姜	4
2	鳥居	FP	金(玉)	0
1	原川	FP	李(京)	0
1	宮崎	FP	金(福)	0
4	小森	FP	張	0
2	藤井	FP	金(竹)	0
0	中川	FP	崔	0
0	鈴木	FP	金(淑)	0
1	国府田	FP	李(相)	1
0	佐々木	FP	金(貞)	4
11	(4) 7MT		(2)	9

前半20分6－1とブラザーが得意の速攻で5点差をつけた時は一方的な結果になるかとみられたが韓国は、前半終了まぎわからようやくリズムをつかんで反撃、特に後半は、李（相）のスタンディングシュートがよく決まり14分7－8と詰めた。ブラザーはセットになると攻撃が中央に固まりすぎ得点機をつかめず22分9－8から小森のゴールで10－8、どうにか勝負を決めたものの、前半、韓国の攻撃がもう少しまとまっていれば試合を落とすことになりかねなかった。

（浅田）

田村紡、前半で決める

第5戦(最終戦)・田村紡（三重全日本総合2位）との試合は17日午後2時10分から朴千柞、西川勤

也両氏審判で開始。

田村紡 8（5—4、3—1）5 韓国ジュニア選抜

【田村】		得	【韓J】	得
GK	久保	0	金(寛)	0
	岡	0		
FP	三毛	2	姜	3
	横山	2	李(京)	0
	和久井	1	金(福)	0
	金田	0	張	0
	松下	1	金(淑)	0
	鈴木	1	金(竹)	0
	沖	0	李(相)	1
	笠	0	金(貞)	0
	落合	1	胥	1
	河田	0	金(玉)	0

5（1）7MT（1）8

韓国は最終戦とあって、田村紡に先行されながらも粘り10分1—3から姜の連続得点でタイ、そのあと田村は三毛、松下で5—3としたが、韓国も22分姜が三たびシュートを決めて4—5と追いすがった。

ところが、後半になると韓国は田村の出足のよいディフェンスに攻撃のタイミングを狂わされ、24分間無得点という貧攻、この間に田村は落合、横山らで加点し、若い韓国を振り切った。5戦を通じ韓国では姜と李（相）の攻撃力が目立った。（田中）

朴氏（韓国）が審判担当

今回の日韓女子社会人交流は第2戦以降、韓国協会審判部の朴千祚氏（35才）が、日本側審判とペアを組み運行した。日韓混合の審判は昨年6月の日韓学生（韓国）につぎ2度目。韓国審判員が日本のコートに立ったのは38年12月第2回日韓高校での鄭鎮圭氏以来。

日本ビクターすっかり安定

NBN杯女子選抜

NBN杯（名古屋テレビ）争奪第2回全国選抜女子大会は3月13日から17日までの5日間、名古屋市体育館に実業団のトップクラス5チームが集まりリーグ戦で行われた。

各チームとも、新戦力を加えての登場で、持ち駒豊富なところを見せたが、全日本チャンピオンの日本ビクターが攻守にいちだんと安定、前回優勝の東京重機工業（東京）などを連破して全勝、初優勝した。

東京重機工業（東京）15（7—1、8—3）4 日立栃木
田村紡（三重）10（5—4、5—4）8 ブラザー工業（愛知）
田村紡 20（12—3、8—3）6 日立栃木
日本ビクター 12（7—3、5—3）6 ブラザー工業
日本ビクター 11（5—4、6—5）9 田村紡
東京重機工業 11（4—3、7—2）5 ブラザー工業
日本ビクター 17（11—1、6—4）5 日立栃木
田村紡 7（4—2、3—5）7 東京重機工業

【田村】		得	【日ビ】	得
GK	久保	0	鈴木	0
	岡	0	渡辺	0
FP	三毛	6	池田	2
	横山	2	阿部	2
	沖	0	蓮見	2
	和久井	0	滝	0
	金田	0	加藤	3
	松下	1	谷沢	1
	鈴木	0	川崎	1
	落合	0	小島	0
	笠	0	穂積	0
	河田	0	額賀	0

（審・松浦、斎藤）

11（0）7MT（3）9

ブラザー工業 19（10—1、9—1）2 日立栃木
日本ビクター 13（7—3、6—4）7 東京重機工業

【順位】①日本ビクター4勝②田村紡2勝1分1敗（得失点差14）③東京重機工業2勝1分1敗（10）④ブラザー工業1勝3敗⑤日立栃木4敗

○……シーズンへの課題を試しながら相手の戦力を探りだそうと、各監督は出番が終ったあともスタンドから熱いまなざしをコートに送り、新星・立石電機熊本の井監督もさかんにメモをとっていた。

実力的には日本ビクターがすっかり安定、印象に残った。高野（世界選手権代表）を負傷で欠きながら得意の速攻がいちだんと鋭さを増し、セット攻撃も池田、阿部の好リードと加藤の進境で多彩になっている。加藤の果敢なプレーは清々しい。

○……その他のチームは、この大会に限っていえばムラがあり、新シーズン巻き返しを期待されている田村紡、東京重機も攻撃力はともかく、守りの面でもろさがのぞく。もう少し粘りが欲しい。

ブラザー工業、日立栃木は壁にぶつかっている感じだ。ブラザーは鳥居（世界選手権代表）、宮崎と秀れたアタッカーを擁しながら、どうも迫力がない。型にこだわらず、一度、思い切ったプレーを試してみてはどうだろう。日立はすっかり試合運びを研究されてしまった。木村の退部と小根沢の負傷が予想以上にひびき、若いだけに、いったん動きが止まると次の手へ移り切れない。今回の不振にこだわらず気分一新の再スタートが望まれる。

○……個々の選手では世界選手権帰りの三毛（田村紡）と古佐原（東京重機）が目立った。特に古佐原は自からの攻撃力のほか、配球力にも巧味が増した。牧野（東京重機）は、ヒザの故障をかばってベンチをあたためていたが、出ていれば相変らずそのシュート力に注目が集ったろう。

GKでは鈴木（日本ビクター）と三紙（東京重機）の動きがいい。

期待の新人は穂積（涌谷高—日本ビクター）、河田（山陽女高—田村紡）、中川（小松市女—ブラザー工業）らが早くもエントリーされていたが、この段階で実力は判断できない。しかし、紀野（大分東高—立石電機）らとともに彼女らが次代を荷う選手であることは間違いなかろう。なお、この大会に

洪淳泰韓国副会長に聞く

若い選手を主力にした今回は、あくまで〝勉強〟が目的だったので、成績（1勝4敗）はあまり気にしていない。5人ほど有力ジュニアが来日できなかったが、ベストメンバーを揃えればかなりやれそうだ。

元白花譲造の主力選手は、いま仁川のクラブチームでプレーをつづけているが、練習不足で、かってのようなプレーは望めない。

今回のジュニアと、あとは梨花大、韓星女大、清州教大などを中心とした学生界が、現在の韓国女子界の第一線である。来年の世界女子選手権にエントリーするかどうかは、今後の理事会で決める。

日本チームは、各チームに二、三名すばらしい選手がおり、彼女たちが一つになれば、強いナショナルができるだろう。目についたのは鳥居（ブラザー工業）、谷沢、額賀（日本ビクター）、古佐原（東京重機）らで、特に鳥居はすばらしかった。古佐原は、あの身体（編集部注・153cm、48K）で世界にも通用するそうだが、男子同よう、アジアが世界の上位へ進出するには〝大型化〟が必要ではないか。

（3月18日、東京で）

は12部門の個人賞が用意されていたが、主な受賞者は最優秀選手・池田（日本ビクター）、得点王・額賀（同）、最優秀新人・河田（田村紡）、最優秀GK・三紙（東京重機工業）だった。（杉山）

世界女子は来年12月

日本協会が非公式に得た情報によると、モントリオール出場権をかける第6回世界女子選手権は、来年12月3日から14日までソビエトのキエフ市大体育館（一万人収容）を主会場として行われる。

大同製鋼、たくましさ増す

朝日招待 実業団

朝日招待第1回全日本実業団男子選抜ビッグフォアリーグは3月21、22の両日名古屋の愛知県体育館で行われた。

参加したのは大同製鋼（愛知）、湧永薬品（大阪）、三景（東京）、大崎電気（埼玉）の4強。国内最高水準のゲームを展開した結果、大同製鋼が初優勝を飾った。この大会は45年から昨年まで「4強定期戦」として開かれていたもの。

大同製鋼（愛知）	21	（11―10、10―6）	16	湧永薬品（大阪）
三景（東京）	18	（10―4、8―5）	9	大崎電気（埼玉）
湧永薬品	18	（11―6、7―7）	13	三景
大同製鋼	22	（13―6、9―8）	14	大崎電気
大同製鋼	27	（13―12、14―8）	20	三景
湧永薬品	17	（9―6、8―8）	14	大崎電気

【順位】①大同製鋼3戦全勝②湧永薬品2勝1敗③三景1勝2敗④大崎電気3敗

○……単独でも、全日本級の力をもつ大同が、順当に優勝をさらったが、各チームも力のある新人を補強、その差は、昨年よりせばめられ、6月の全日本実業団リーグ（注・今大会出場チームのほか本田技研鈴鹿、三菱レイヨン大竹が参加）の展開が大いに楽しみとなった。

大同は、藤中が一段とすご味を増して射ちまくり、19ゴールをあげ得点王。ちょっと手がつけられない感じだ。柳川弟もすっかり自信をつけ、動きにムダがなくなった。主柱の中井が世界選手権での負傷のため欠場したが、その穴を感じさせないほど大同のチーム力は、たくましさとまとまりがある。

○……他の3チームでは大阪経大から穂積、津川（ともに全日本B）を加えた湧永と、法大の山村、川島らを迎えた三景が、早くも新戦力を巧く溶けこませチーム力アップをはっきりと示した。

湧永は木野、森、高橋、戸田らベテランの味と若さがかみあわされ、いっそうその戦法が多彩になった。捨てがたい攻撃力をもつベテラン市原を休ませながら使え、層も厚くなる。

学生界一といわれたGK福井（中京大）の入社も決まっており、「打倒大同」一番手の陣容だ。

○……三景は、二新人の技巧で佐々木、高梨、内藤ら巧味のあるチームカラーが強められた。守りのコンビネーションがととのえば、最上位へ躍りでる力はじゅう分とみたい。

大崎は、井手、橋本（ともに法大）小松原（早大）らの新人をあまりこの大会では使わず、しかも荒井が欠場したため、3敗をそのまま評価することはできない。チームに活気が戻ったし去年のような低調でシーズンを終えることはなかろう。不安材料は、大駒3枚をもっていたGK陣から、オリンピック選手の下里が昨年暮れに退社、小松（ヤング全日本）も中大入学を果たしたため、岩下一人になってしまったことだ。（H）

関東学生、4月27日開幕

関東学連春のリーグ戦の日程と、男子1部の試合開始時刻は次のとおり。▽4月27日午後3時30分・駒沢体育館▽4月29日・5月3、6日いずれも午後1時・駒沢屋内球技場▽5月10日午後3時30分・駒沢屋内球技場▽5月18日午後2時15分・駒沢体育館▽5月19日午後1時・駒沢体育館

東ドイツ（世界2位）9月に来日

日本体協では東ドイツとのスポーツ交流（7競技）を今年度から正式に行うことを決め、3月18日関係競技団体と協議を行った（荒川理事長出席）。

ハンドボールの第1回は、今秋9月、東ドイツから男子ナショナルチームが来日、8月31日東京で第1戦、5試合を行う予定である。東ドイツ男子は、別掲のとおり、地元で開いた今年の第8回世界男子選手権で予想どおり決勝へ進出、ルーマニアに惜敗したものの、現代最高のアタッカーといわれるガンショフをはじめ、カーラート、ラッケンマッハら迫力に満ちた攻撃陣をもつ最強のチームだ。日本協会では4月上旬に荒川理事長を委員長とする小委員会を発足させ、受け入れの詳細を決めるが、ファンにとっては昨秋のユーゴ招待につぐ期待のシリーズとなろう。





鍛えぬかれたフォームにこそ、
メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ

東京重機工業株式会社

デンマークの強豪クラブ

スタジオン・IF（コペンハーゲン）が来日

全日本などと各地で5試合

本誌前号既報のとおり、デンマーク男子の名門「スタジオン・イドレッツ・フォルニンゲン（IF）・コペンハーゲン」クラブ（ヘンリクセン団長ら16名）が来日、3月31日から4月8日まで、国内各地で5試合を行う。

デンマークからの来日は史上初めて。過去七たび渡欧している全日本男子も、同国を訪れたのは45年の1回だけ、ナショナルとの公式交流はいちどもない。

4年前の遠征で、全日本は3試合を行い2分1敗だったが、実はこの1敗（17－18）は、スタジオン・IFを中心としたニコビング選抜軍とのもの（＝本誌74号参照）。

この時対戦したメンバーのうちGKピーターセン、フランドセン、B・ヨルゲンセンの3選手が今回のメンバーに加っている。

デンマークは、7人制ハンドボール発祥の地といわれ、国技の扱いをうけているだけに国民の関心は高く20万近い競技人口をもつ。

特に男子は二千近いクラブが活動をつづけ、スタジオン・IFは、その頂点に立つ「全国リーグ1部」に属する同国の代表的強豪だ。

「全国リーグ1部」は10クラブからなり、2回総当り、スタジオンIFは7年前昇格以来、つねにAクラスを確保、昨シーズン18戦16勝2敗（総得点347、総失点267）の好成績で優勝した。今シーズンは出足でつまづき、あと3試合を残す3月7日現在15戦9勝1分5敗（総得点264、総失点248）で4位、連覇の望みは消えている。

デンマークの国際舞台における実績は、ライバルであり、盟友であるスウェーデンに押され気味であったが、そのスウェーデンで開かれた第6回世界選手権（昭42）に準優勝を飾り話題をまいた。

しかし、ミュンヘンオリンピックでは東欧の強豪にはさみ討ちされ13位というかってない屈辱をうけた。このため、今春の世界選手権目指して全デンマークが奮起、東欧全盛の流れの中で、唯一の西側国としてベストエイト入り、8位に巻き返した。

チームの主力は、このクラブから唯一人、今回の世界選手権代表となったフランドセン（184cm、83K、12得点）とB・ヨルゲンセンピーターセンらだ。

ヨルゲンセン（183cm、83K）はすでに8年間もナショナルの主力として名をはせるスタープレイヤー。なお、五輪代表の一人S・ルントは負傷で来日をとりやめた。

チームの層は厚く、特にこのクラブのジュニアは昭和38年以降11シーズンに6回の優勝を飾っている。

日本側は、全日本教職員4位の愛知教員をはじめ、東海地域の単独チームと、全日本、全大阪が迎えうつが、単独チームは苦しい。全日本、全大阪にしてもけっして楽な相手ではない。特に欧州の単独チームは、ナショナルチームとの対戦には斗志を燃やすだけに軽くみると手こずりそうだ。

○……日　程……○

▽第1戦　3月31日午後3時、対静岡教員団（清水市営体育館）
▽第2戦　4月3日午後6時、対二和家具（岐阜県民体育館）
▽第3戦　4月6日午後3時、対愛知教員（愛知県体育館）
▽第4戦　4月7日午後2時30分対全日本（京都府立体育館）
▽第5戦（最終戦）、4月8日午後5時30分、対全大阪（大阪市中央体育館）

○……来日メンバー……○

▽団長、V・ヘンリクセン▽監督F・アンデルセン▽選手　GK＝L・ピーターセン（NP）、F・オルセン、FP＝P・ブロギャールト、J・フランドセン（ミュンヘン五輪及第8回世界選手権代表）、L・ニールセン、T・ヨルゲンセン（NP）、B・ヨルゲンセン（ミュンヘン五輪代表）、F・ラルセン、R・クリステンセン、C・アンデルセン、B・G・ピーターセン、B・ラスミュゼン、F・O・ジェンセン、O・ニールセン

(注)（　）内NPはナショナルプレイヤーを示す。平均身長は182cm、同体重は81K。

世界選手権代表が対戦

日本協会は、4月7日スタジオン・IFと対戦する「全日本」の陣容を次のように決めた。いずれも第8回世界選手権代表（全日本A）である。

【全日本】▽監督　北川勇喜▽コーチ、大西武三▽選手　GK本田洋（大阪イーグルス）、柳川清（大同製鋼）、FP藤中憲二、中井武三、花輪博、柳川実（以上大同製鋼）、木野実（湧永薬品、コーチ兼任）、佐藤要二（本田技研鈴鹿）、大江隆夫（三菱レイヨン大竹）、夏目真治（中京大出）、菊池悟（早大）、村田幸男（法大）、蒲生晴明（中大）。

全大阪の陣容も決まる

大阪協会は、4月8日スタジオン・IFと対戦する「全大阪」の陣容を次のように決め発表した。

【全大阪】▽監督　東嘉仲▽コーチ福井稔（大阪イーグルス）、木野実（湧永薬品、全日本）〜両コーチともFP兼任▽選手　GK本田（大阪イーグルス、全日本）、河原（大山商会）、今井（湧永薬品）、FP森、高橋、戸田（以上湧永薬品）、穂積、津川（以上湧永薬品、ともに全日本B）、池本、早川（以上大阪イーグルス）、丸井（大阪体大、ヤング全日本）、野波（大阪体大）、有永（福島ク）、入江（同志社大）。

立石電機が初登場　旧大洋デパート勢の移籍によって発足した女子実業団・熊本立石電機（熊本）は、4月7日午後1時から京都府立体育館でブラザー工業（愛知）と、8日午後4時から大阪市中央体育館で田村紡（三重）と対戦する。いずれも日本×デンマーク（スタジオンIF）戦のプリリミナリイ・ゲーム。

「ヤング全日本」選考の手順

日本協会技術部長
渡辺慶寿

機関誌前号でも伝えられたとおり、日本協会は2月11日の全国会議（評議員会、理事会）で、技術部提案による新機構、ヤング全日本（男子のみ）などを承認した。

ヤング全日本決定の手順を説明するとともに今後の技術部事業への協力をあおぎたいと思う。

◇

日本協会にはナショナルプレヤーの選考基準が設けられている。

まず前文として、

「日本ハンドボール協会ナショナルプレーヤーは、日本ハンドボール協会登録規程により正規の登録手続きをした選手で国際試合に立派に活躍できることを条件とし、日本国籍を有する者に限る。」

とありその選考基準の具体的なものとして、

一、〔肉体的条件〕①体格的に恵まれていて、将来性のあること。②基礎体力・ゲームスタミナに秀れている。③走力、フットワークに素早やさと爆発的な力をそなえている。二、〔技術的条件〕①ボールの保持能力が秀れている。②秀れたシュートを含め基礎技術に優れている。③防御力に秀れている。④対外国チームに通用する特殊な技能を持ちあわせている。⑤リードオフマン、アシストプレーヤーとしての能力を持ちあわせている。⑥組織活動に秀れている。三、〔精神的条件〕①責任感が強く根性がある。②チームワークがとれる。③スポーツマンシップに秀れている。④勝利の執念に燃え勝負強さ（勇気がある）を持ちあわす。四、〔試合の展開力〕①国際試合又は国内試合の経験が豊かである。②コートマナーがよい。③ハンドボールをよく知り、読みが深く判断力に富む。④ルールをよく知っている。⑤反射神経がよい（注意力、集中力）。があげられている。今回のヤングナショナル選考にあたっては、これらの点をわきまえたうえ、さらに未知数の魅力を貯えた——例えば「国際試合に通用するであろう可能性、期待性」等々——選手も包含するとしたことは当然である。

最終的にヤングナショナルの選手選考を進めるうえで、さらに具体的な「基準」として採りあげたのは、国体、全日本高校、同学生、同実業団の各選手権それに全日本総合選手権の各試合を対象として、体力面については、選考基準の一の項の①についての身長、体重、ローレル指数から特に体格面で秀れている者を選考の対称として、更に日本独自の戦法に遂行の可能性ある運動能力面の②③スピード・スタミナ・調整力を加味するいずれも主観的評価（五段階法）を採用することとした。

別表（1〜3）についてのミュヘンオリンピックの日本代表（近森ら12名）の平均値を附記しておくと、身長は180・2cm体重は75・1kgローレル指数は128・9であった。

〔第1表〕客観的選考に関する基準内容・身長

（測定値）	（評価点）
191cm以上	5
185〜190cm	4
180〜184cm	3
175〜179cm	2
170〜174cm	1

〔第2表〕同・体重

（測定値）	
81kg以上	5
76〜80kg	4
71〜75kg	3
66〜70kg	2
60〜65kg	1

〔第3表〕ローレル指数（からだの充実度数）の客観的選考に関する基準内容

（測定値）	（評価点）
136〜140	5
131〜135	4
125〜130	3
120〜124	2
115〜119	1

次に、技術面については、技術的条件の①②③④⑤について現有の技術と将来の技術修得の可能性を予測して主観的評価を行った。

精神面については、基準（条件）の①から④について全体評価し、特に①と④は重点的に観察し評価した。戦術面は特に③を重点的に考慮してある。

以上の基準にしたがったがヤングについての一番大きな規定（特色でもある……）は、選考会議当日時点で、満22歳以上の者は対象としないという大前提である。

これは、第1期生ともいうべきメンバーを48年1月に発表した時に定められたものであり、当然今回も踏襲した。同時に第1期29名（ほかに当時中学生3名）のうち、49年度ナショナル入りした者と満22歳をこした者の整理を行い、8名（本誌前号9頁参照）が残留。新たにリストアップされたヤング17名（同）とあわせ25名となった年令別内訳は21歳6名、20歳8名、19歳5名、18歳4名、17歳1名、16歳1名（注・いずれも選考日時点の年令）である。21歳の6名は、49年度内にナショナル入りできなければ、ヤングの資格を失うことは従来どおりだ。

これらの選手たちは、3月23日から27日までの5日間、茨城県笠間市で強化合宿を行い、指導には川上整司（中大附高監督・日本協会技術委員）、近森克彦（三陽商会・前オリンピック代表）、東一敏（大崎電気・前ナショナル選手）の3氏があたった。

以上が今期のヤングナショナルメンバーの選考の手順および基準としたものであるが、今後これらの問題についてもひき続き検討する必要があると考えている。ところで、今回のヤングの選考は、ある部分で技術部新機構の初仕事でもあったが、さらに主事業である男女ナショナルの強化策、コーチングスクールの開催における具体的な指導者養成の手順など早急に具体化せねばならず、強化に必要な人村の確保、特に女子の強化については結論を急がねばならぬ時期である。また。技術系の3部合同委員会の運行も4月早々に開始したいし、各部門の活動内容を改めて明確にする必要にも迫られている。

技術部としては、4月に全国技術委員総会の招集を予定しているが、将来はハンドボール界に必要なあらゆる角度の研究機構を結成したいと考えており、そのためにも人材の養成確保を心がけるつもりだ。

しかし、頂点強化は一朝にして成るものではなく、スタッフの献身的な努力、勤勉な態度はもとより、多くのかたがたの助言をお願いしたい。（了）

15日に3部合同初会議　日本協会は注目の頂点強化新機構「3部合同会議」の初会合を4月15日東京で開くことに内定した。

今夏に「全国教育系大学々生研修大会」

文部省は、日本協会が今年度から実施を予定していた「全国教育系大学研修大会」を同省の補助事業である「教員養成大学学生スポーツ研修大会」の一環に加えることとし、開催費の一部補助を決めた。

文部省の説明によると「教員養成大学学生スポーツ研修大会」は原則として、教員養成の学部（体育学部を含む）に籍をおく学生などを対象として競技団体が行うスポーツ研修大会の開催費をバックアップして開くもので、日本協会普及指導部が数年来、開催の検討を進めていた事業と同目的、同部で今夏、小規模ながら第1回大会の実現を八分どおり決めていたやさきの〝朗報〟だった。

文部省の補助を得たことから、日本協会は計画のねりなおしをする一方、要項発表を早ければ4月なかばまでに行うよう準備を進めている。

文部省の補助とりつけには、日本協会・荒川清美理事長が折しようしたほか、全日本教職員連盟・的場益雄副会長も尽力、この線から、全日本教職員連盟がこの事業に意欲を示しており、日本協会―同連盟間の調整も必要である。▽

日本協会は3月16日の月例常務理事会（東京）で、「全国教員養成大学研修大会」について協議、荒川理事長を委員長とする小委員会を早急に編成、日本協会事業として運営することを確認、8月中旬東京での開催を内定した。

審判担当に藤田信義氏　全日本学連

全日本学連は2月11日東京で全国役員会を開き、昭和49年度役員の選出を行った。

その結果、西敏郎会長、中沢重夫理事長、藤原侑技術担当理事らは留任となったが、審判担当理事は藤田信義氏（中四国）、普及担当理事は福地賢介氏（関東）に代った。これは前任者（審判＝宇津野、普及＝滝口）の辞意を受けてのもの。このほか会長補佐として藤松博理事（東海）を決めた。委員長は伏見和則（早大）君。

また、来年1月ルーマニアで開催される第6回世界学生選手権（男子のみ）への参加を前向きに検討することとなった。

物価高の波よせる
―日本協会事業予算

日本協会は2月10日の全国会議（定期評議員会、理事会）で、本誌既報のとおり、昭和49年度一般会計予算につき協議、承認した。

事業予算は、別表のとおりで昨年比約五百六十万円増、一般会計としては初めて二千三百万円台をマークした。

収入予想額は、二三三四万円でこの事業計画（支出）を充たすことになるが、収入面には日体協からの補助金（競技力向上費）など推定額が四百万円ほど含まれており、しかも、来年度以降の国際事業への貯えも必要とのみかたから、登録料などの〆切りを待って早ければ6月には予算補正する。

事業予算のうち、物価の高とうから人件費、通信費などを含む事務局費がついに五百万円台となり、加盟金登録金収入（推定、五百九十万円）をこの一部分だけで費消してしまうことになった。

社会情勢の変動は、ますます日本協会の台所を圧迫しそうで、50年度以降抜本的な対策をこうじない限り、事態は憂慮される。

なお、49年度予算編成を前に、各部からの要求総額は、二五、二五五、九〇〇円だった。

審判時外の服装を統一
日本協会審判部で取次ぎ

日本協会審判部では、主要大会時、審判する以外に着用の服装トレーニングシャツ、パンツについてかねてから研究を進めていたが、このほど制定を決め、A、B級公認審判員からの受注をはじめた。申しこみは、各都道府県協会を通じ、4月20日日本協会締切りで取りつぐ。C・D級審判員も希望できる。代金はワッペン料、送料を含めて一式七千五百円。サイズは別掲の4種で、別注のサイズは一式一万四百円となる。

（サイズ）S＝身長160cm、胸囲95cm、肩幅42cm、股下67cm、ヒップ86cm。
M＝165cm、100cm、44cm、70cm、90cm。
L＝170cm、100cm、46cm、73cm、95cm。
O＝180cm、110cm、48cm、76cm、100cm。

昭和49年度日本協会一般会計事業予算

▽総務企画部	
事務局経費	5,100,000円
加盟費	254,000
会議費	730,000
国際渉外費	220,000
国内渉外・広報費	330,000
事業費	2,262,500
IHF年次総会費	240,000
▽財務部	
公認会計士監査委嘱料	200,000
事務費	20,000
▽技術部	
全日本強化費	1,188,000
全日本女子強化費	1,188,000
ヤング全日本強化費	950,000
コーチングスクール費	251,600
調査・研究費	270,000
会議費	160,000
▽審判部	
競技規則作成費	600,000
審査関係経費	165,000
研修会関係経費	454,000
ルール研究会費	67,200
会議費	465,000
▽普及指導部	
全国普及指導委習会	151,100
テキストブック第2版作成費	400,000
調査・研究費	390,000
会議費	100,000
▽中学部	
第3回全国中学生大会開催費	550,000
会議費	157,000
▽編集部	
印刷・編集・発送費	5,700,000
予備費	100,000
ハンドボール史編さん準備費	30,000
▽3部合同会議経費（補正時計上）	
▽教員養成大学学生研修大会費（検討中）	
総計	23,023,400円

日本協会普及対策大系

日本協会普及指導部は同部中央委によって普及対策の大典ともいうべき「日本ハンドボール協会普及対策大系」の作成を急いでいたが、このほどまとまり、２月９日の日本協会常務理事会に提出した。

同大系は基本方針のほか、広報活動、学校体育面にも積極的に言及、プロコーチ制の確立を要望するなど現状に即した内容が盛りこまれている。全文次のとおり。

トップレベルへの普及策

普及は競技と指導者及びそれをとりかこむ環境の整備を考えなければならない。

普及のポイントである競技者の増大と指導者の養成については学校体育、地域社会及びトップレベルの三つの分野から考えられる。

トップレベルの普及は底辺の普及なくして考えることは出来ない。

図（次頁）を見ると明きらかなように学校体育分野における普及なくしてトップレベルの普及を考えることができないのである。

現状はハンドボールに対する初めての経験が学校体育に負うことが大きいから、いわば学校体育におけるハンドボールは、ハンドボールマンの苗床と云える。

それ故、普及のためには、まず学校体育の中でハンドボールの位置づけが行われる努力をすることが必要でる。

ハンドボールが日本のあらゆる学校で行なわれるようになれば、国民一人一人にハンドボールに対する意識を生み出すことになり、それはクラブ活動（トップレベル）や地域社会のハンドボールの発展に尽くす力となるだろう。

以上は底辺を直接拡げていく普及の道であり、我々が努力していく道であるが、それに対応するものとしてトップレベル分野の中の「ナショナルチーム」がある。

日本のナショナルチームが強くなればハンドボールマンに対して夢を与えるとともに、日本国民にハンドボールに対する認識を与えることができる。

底辺に対する普及策とナショナルチームの強化は、ハンドボール発展のための両輪である。

以上のことから日本ハンドボール界が発展の途中にある現在、トップレベルだけの普及策というのは考えられないが、とりあえず考えられる普及策を述べたい。

▽競技者に対して

トップレベルでは、高校の競技者（授業ではなくクラブ活動）がその大部分を占めているが、途中で辞めてしまったり、卒業後競技を辞めてしまう例が大変に多い。

高校卒業後辞めないでどこかのチームに入って活動するだけでもトップレベルを増大させることができる。

また、大学やその他の競技連盟に加盟している競技者も、いっしか競技から去ってしまう者が多い

トップレベルの普及策の独自なものとしては、去る者を食い止めることから始めなければならないと思われる。

そのためにはハンドボールを単に若い時代の勝負だけのものとしてとらえるのでなく、生涯にわたって人生をうるわせるものであるという「生涯スポーツ」としての価値づけを行うことである。またその環境を整えることだと思われる。

具体的には

(1)　ハンドボールを生涯スポーツとして持ちつづけられるよう価値づけを行う……ＰＲの積極化

(2)　いつでもプレーできる環境をつくる……地域社会、行政

(3)　大会などを行ない刺激を常に与える……ＰＲと協会の実質的行動

(4)　指導者に対する指導……ＰＲ協会

▽ナショナルチーム

トップレベルの中で別格のものと考える。ナショナルチームの普及というものはない。日本のハンドボール競技者の中から生まれた世界に輝やく星でなければならない。競技者が多ければ多いほどその星は輝けるハズであろうし、また、その光は日本のすみずまで照らしだすにちがいない。

ナショナルチームとはそういうものである。

普及にたずさわるものは日本の中に、その光を感じる心をつくりあげねばならない。

▽指導者に対する普及策

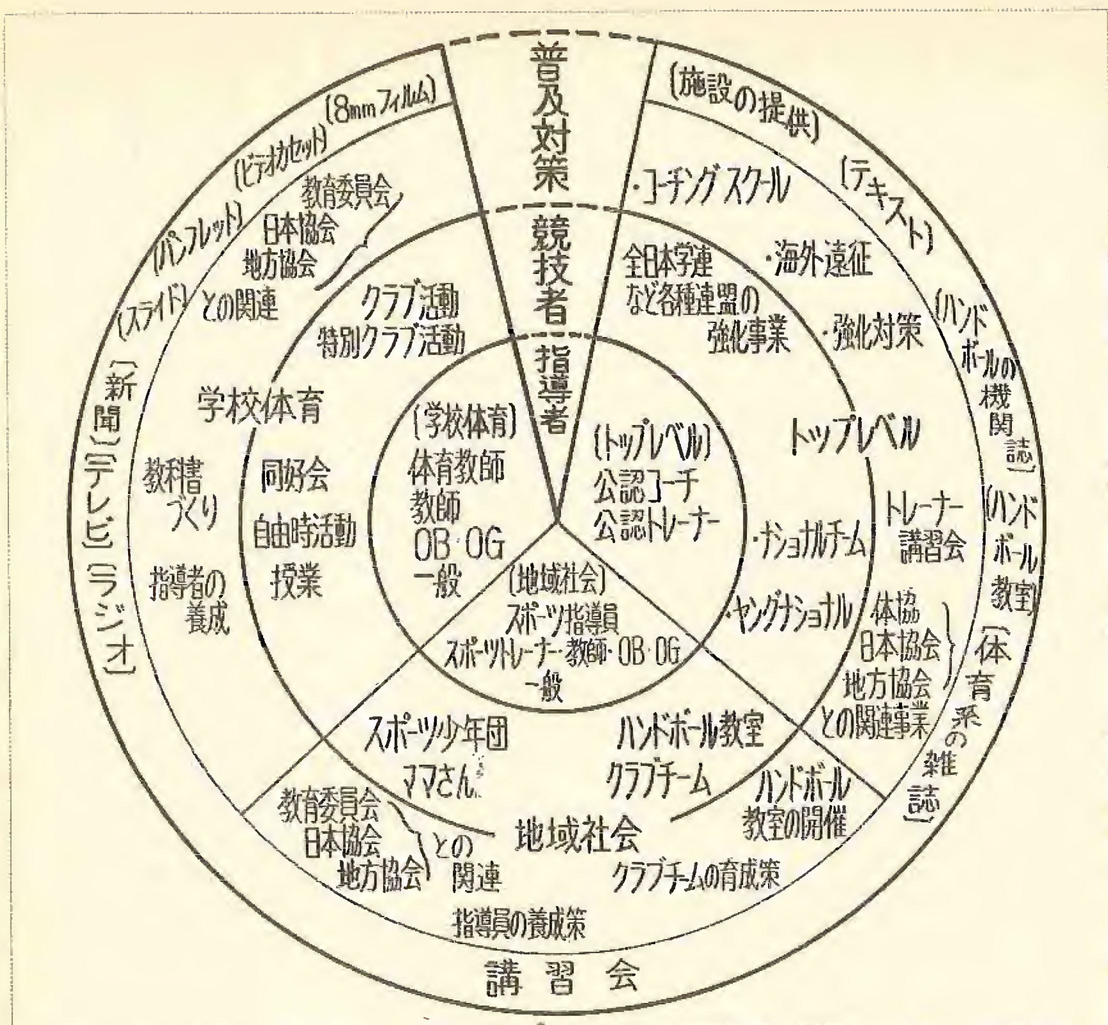
トップレベルの競技者は、指導者の卵としてとらえ、その養成が必要である。それは競技を辞めさせないことにも通じる。

具体的には日本ハンドボール協会独自で公認指導員をつくり、協会に登録する。公認指導員はトップレベル、競技者、ＯＢ、ＯＧから成る。その職務は

イ、ナショナルチーム、その他のチームの指導をする。

ロ、講習会の講師として派遣する。

ハ、どこかのチームから要請があれば長期あるいは短期にわたっ



て指導する。

二、国内いたるところに指導員は巡回し、情報の提供と指導を行なう。

なお各連盟（加盟団体）に対する普及策は、現段階では今後の問題として対処する。

地域社会への普及策（ハンドボール指導者と競技者の構成と普及策）

▽指導者

a、スポーツ指導員

秀れたハンドボールの指導者養成が、即普及につながる。「国民総スポーツ」を合い言葉として生まれたスポーツ指導員も、地方では活用の場が少なく、特にハンドボールに於いては、年令や職種上講習会などに参加のチャンスも少いため、せっかくの制度や趣旨もなかなか利用するまでに至らないのは残念なことである。

したがって、これには次のことを実施していく必要がある。

イ、種目別にチャンスを与えるように配慮する。

ロ、活用の場をより多く設定する。

ハ、講習会の内容にハンドボールを盛りこんでもらう。

b、スポーツトレーナー

スポーツトレーナーも、スポーツ指導員と同ようで、指導者の増加と資質の向上が目的されているが、なかなか講習や研修のための一週間の日程は、勤務や仕事の関係上とれないし、もし、とれる状態にあっても参加のチャンスが少くてできない。

また、自己研さんを主体とするものだけに内容的には非常に好いものがある割りに、積極的に参加する傾向がないのもさびしい。

イ、活用の場を設定する対策が欲しい。

ロ、そのことが、なんらかの職務上あるいはハンドボールの運営や競技などに有為であることが必要である。

ハ、資格取得が、ハンドボール界で、なんらかの〝条件〟になりうること。

c、教師

日本ハンドボール界に於ける指導者の大半は教師であり、その動機づけもまた教師である、と云い得る。

したがって、現場の教師にどのような方法によって理解してもらうか、自校でもやってみようという気になってもらい得るかを考えたい。

イ、ハンドボールの指導的立場にある人が積極的に働きかける。

ロ、管理職クラスの理解を深める。

d、OB・OGについて

OB・OGについては、マイナス面の防止に努める必要がある。

つまり、いかにしてハンドボールへの愛着を留めてもらい得るか、競技から去らないようにするか、だ。
　これらの要因として考えられるものは
　イ、卒業したあとに顧問などが代ったためなんとなく遠のいている
　ロ、生活環境が変ったので、時間的余裕がない。
　ハ、自分の住む地域に施設がない
　ニ、同じ地域での愛好者を見つけることが難しい。
　ホ、近くのチームは他の学校出身のOB・OGで固められ入りづらい
　へ、第一線の者には体力的にもついていけない。
以上の理由が主となっているようで、その解決策として
　イ、OB会やOG会をハンドボール指導者が積極的に結成する
　ロ、年に何回かの集りをもって皆で協力して連帯感を育てる
　ハ、手近かに施設を利用できるように行政的配慮をする
　ニ、地域毎に同好会または市町村教育委員会の体育協会にハンドボール組織を創る
　ホ、クラブなどの指導中に排他的な考えを是正するよう指導しておく
　へ、年令別ごとの市町村対抗試合などを設けて年令があがっても充分親しめるように考える。（例……パパさんチーム、ママさんチームなど）

▽競技者

　a　ハンドボール教室

　地域住民に直接ハンドボールに親しむ機会を与え、これによって楽しみながら体力向上や、体力維持に自ら励むチャンスをつくり、各地域の特性を考慮して開設して行くものがよい。
　一県で4～6教室、5～6コースを選択して開設しているが、どこの市町村でも開設できるようなムードが欲しい。（例として、名古屋の西川勁也氏が開設している「小学生ハンドボール教室」がある。）
　テレビなどでもどしどしハンドボール競技を観せてもらいたい。

　b　スポーツ少年団

　スポーツ少年団の全国大会をみてもハンドボール希望者は少なく中にはハンドボール競技を初めて見た、知ったという少年少女がいることは驚きであると同時に、事実である。
　これらの生徒たちを指導することは普及の面で大きな役割をもっている。スポーツ少年団のリーダーたちは各市町村に帰って、ハンドボールを拡める先駆者となるであろうし。団単位に於いても、その活動は小中学生の熱を煽ることは云うまでもない。スポーツ少年団のリーダーにハンドボール指導者を増す対策を考じるべきである。

　c　クラブチーム

　クラブチームの育成は、一般の人に対する普及と、その周囲の人及び前に述べたOB、OGの問題などとともに、プラス、マイナスのいりまじったことである。
　クラブチームの存続は。単に大会をもっだけでよいであろうか？
　勝敗以外にもなにかが必要なのではないか。例えば
　イ、年令別のクラブ内、クラブ間試合を行なう
　ロ、競技のあと懇親会などを行なう
　ハ、地域的なつながりの上に立って、地域住民のためとなるなんらかのシステムを持つ
　ニ、交歓会的性格を持たせる

　d　パパさん、ママさんハンドボール

　家庭に入ると、ハンドボールから遠のきがちであるが、バレーボールなどにみられるように、なんらかの条件を設けて同じような状態の中で、交歓試合などを行うことなども一策であろう。例えばこんな試みはどうか。
　イ、2児の子持ちで40才以上の人がチームに参加できる……
　ロ、地域的制限（例えば同一小学校PTA単位とか）を設ける
　ハ、月1回などときめて練習をする

　e　生涯体育

　「トップレベルへの普及策」（18頁）の項にも述べられていることと同内容。

一般的普及の方法

　普及対策やPR活動の一般的方法を考えていく場合に次のような四つの段階が考えられる。
　(1)　より多くの人々に「ハンドボール」を知ってもらい、興味をもってもらうためには。どのような方法があるか
　(2)　より多くの人々がハンドボールをプレーする機会を多くするにはどのようにしたらよいか
　(3)　ハンドボールをプレーする楽しさを知った人々に、より永くプレーに参加してもらうためにはどんな方法があるか
　(4)　ハンドボールの良い指導者を育てるにはどうしたらよいか
　この四つの段階をふまえて普及の一般的方法について考えてみる

▽報道機関への働きかけ

　一般大衆に対するPRとしてはその与える範囲から云ってももっとも効果のあるものと思われる。
　ハンドボールという名称すら知らない人々に対するPRという面からも、ハンドボールに関心のある者への影響という面からも重要

な問題である。

　したがって報道機関に「どのくらい採りあげてもらえるか」によって普及対策の受ける影響は大きいと云わなければならない。報道機関への積極的な働きかけと、報道関係者とのつながりを深めることが大切と思われる。

(1) 新聞

イ、日常のスポーツ記事のなかで、ハンドボールの試合結果をできるだけ多く記載してもらうように積極的な働きかけをする

ロ、ローカル版などで、地方、地元などで行なわれるゲームの結果の記載を働きかける

ハ、全日本総合選手権、国民体育大会などの大きな大会の際に特集記事を組んでもらう

ニ、全日本学生選手権、全日本高校選手権や各ブロック大会など地方で大会が行なわれる際に地元新聞社に働きかける

ホ、国際試合などの折に大きく報道してもらう。（この場合「強い全日本」が不可欠である）

(2) テレビジョン、ラジオ

イ、全日本総合選手権や国際試合などの大会の実況中継を積極的に進めるとともに、全日本高校選手権、全日本学生選手権などでも放送の機会を求める

ロ、日常のニュース、スポーツニースのなかで試合の結果をできるだけ放送してもらうように、試合要項の発送及び成績の送付などで放送局へ働きかける。

ハ、テレビの講座番組（例えばテレビスポーツ教室）などでの放送を働きかける

▽8㎜、16㎜、ビデオテープ、スライドの作成

　視聴覚教育の普及で、スライドだけでなく「動き」のとらえることのできる8㎜、16㎜、ビデオテープがこれからは注目される。

　それぞれの目的にそった内容のものが精選されており、各学校や団体、チームなどの手に入りやすくすると共に、各種講習会の際にも利用しやすくしておくことは、ハンドボールを知るうえでも、研究をして行くうえでも大きな効果がある。

　内容については次のような段階が考えられる。

〔初心者向け〕　基礎技術中心の解説、ハンドボールの楽しさ、面白さのPR

〔学校向け〕　技術段階にそった指導中心、授業で使用できるもの

〔プレーヤー向け〕　練習法、ルール、ゲーム、体力トレーニング

〔チーム向け〕　攻撃法、防禦法、模範試合など

　これらは、日本ハンドボール協会で構成、作成、編集し、主に貸し出し用として各都道府県協会や各加盟団体にそなえておくものと日本協会も含め、出版社から刊行される販売用のものとが考えられよう。

▽講習会、ハンドボール教室の開催

　ハンドボール競技の正しい認識と競技人口の増加を企るためには学校体育のみに依存しているのではなく、少年、少女の頃からハンドボールに接する機会を多くするとともに（中学校で始められるハンドボールの授業とタイアップしながら）、青年期でのチームリーダーの養成（高校OBの活動場面）さらに進んで、ハンドボール指導者の養成を企ることが大切である。

　そのために開かれる講習会、ハンドボール教室には次のようなものがある。

イ、青少年向けのハンドボール教室（初心者）

ロ、ハンドボールリーダー講習会（中学校、高校）

ハ、教育系大学生対象の講習会（大学）

ニ、体育指導者対象の講習会
・学校体育関係研修会
・スポーツトレーナー講習会
・社社会体育指導者講習会

ホ、パパさん、ママさんハンドボール

▽より多くの大会の開催と各種大会のPR

　現在、中学校、高校、大学の各大会、一般、教員、実業団、自衛隊などの大会、各都道府県大会、各群市町村区大会、クラブ大会などの各種大会がもたれている。

　これらの各大会のありかた、運営、内容を再検討し、より多くの人々が参加できるように大会の積極的なPRが大切である。また各セクションでの練習試合や、地域での親善試合などを進めていくことも重要である。

　各種の大会のほか、全日本チームの模範試合なども含め、より多くの人々にハンドボールを観戦してもらうためにポスター、入場券の配布など積極的な客の動員を企らなくてはならない。

▽パンフレット、プログラムの利用

　講習会や各種の大会で利用できるパンフレットを作成し、各連盟各協会で活用してもらう。内容についてはハンドボールの簡単な紹介や、ハンドボール競技の特性の解説、技術の説明など数種類を用意しておくとよい。

　全日本総合、全日本実業団、全日本学生、全日本高校など大きな大会や国際試合、その他の公式試合などで作成されるプログラムを利用して、そのページの中に「ハンドボールをはじめてみる人のために」や「ハンドボールのみかた」などを記載してもらうように働きかける。

▽テキストブックの編集

ハンドボールの正しい理解と研究のためには秀れたテキストブックが必要である。

各学校の生徒、学生のテキストとして、また指導者の手引きや学校での授業の指導案の参考としても積極的に利用されるように働きかけると共に、各種講習会での利用や、各図書館での蔵書を積極的に働きかける。

テキストとしは次のようなものが考えられる。

イ、ハンドボールテキスト（日本ハンドボール協会編）
ロ、ハンドボール教程
ハ、ハンドボール指導書
ニ、副読本、ルールブック、図解体育

▽雑誌の発行

イ、一般商業誌としてのハンドボール専門誌の発刊（季刊、月刊旬刊、週刊）
ロ、スポーツ専門誌（スポーツ総合誌）でハンドボールを扱う
ハ、体育研究関係雑誌、体育教育関係雑誌にハンドボール研究を記載する

▽日本ハンドボール協会及び他組織での機関誌刊行

他でハンドボール専門誌を発刊する計画のない現在、機関誌「ハンドボール」の占める位置は大きい。それだけに、すべての段階で利用できるように内容を検討して協会と読者とのつながりを深めるようにし、チーム購読だけでなく個人購読を促進する。

また、地域での連帯を深めるためにも各都道府県協会での機関誌の発行も考えられてよい段階であろう。

▽施設の提供

イ、常設のハンドボール競技場（ハンドボールの殿堂）の設置、
ロ、すべてのハンドボール関係者が利用できる専用コートや合宿所などの施設づくり
ハ、公営体育施設、学校施設、企業施設にハンドボールコートを設けてもらう
ニ、学校体育施設の社会体育への開放

▽ハンドボールのイメージアップ

〝粗暴なハンドボール〟〝危険なスポーツ・ハンドボール〟といったハンドボールのイメージは、普及していくうえには大きなマイナス面といわなくてはならない。これを防ぐためにはルールの正しい解釈と運用を企てなくてはならない。

そのため競技者、指導者はもとより、特に審判員を通じての努力がもっとも望まれることである。

ハンドボールの楽しみをより多くの人々が知り、その楽しみを永く保ち、一生を通じて生活の中にとけこむスポーツ（ハンドボール）としてありたいものである。

学校体育分野に関しての普及対策

▽大学

第一に授業に採用（開講）すべく働きかけること。

体育専攻の卒業生ですらハンドボールのルールを知らない状態である。

第二に現在開催されている学生大会や学生リーグ戦とは別に、登録者以外の教育系学生の大会や講習会を将来の指導者養成という点からブロック別に開催することが急務である。この際、文部省主催か少くとも共催のかたちをとることが必要。

第三に国公立の大学体育大会がブロック別に実施されているがその種目に採りあげてもらう努力をつづける。

第四には、隣接の大学でサークルの中にハンドボールクラブのない場合は新設させるべく働きかける。

▽高等学校

正課の授業と必修クラブ活動において実施すべく働きかけることまた、定期的に校内大会を開催することが必要。

このためには指導者を適切に配置すべきことと、経験者を積極的に指導にあたってもらうべく働きかけたり、強く要請する。

指導者の養成や関心を深めてもらうべく種々の講習会を開催する。

特に体育の教師を対象に、とこだわることなく、広く参加してもらえる方法を考慮する。この際やはり文部省なり、教育委員会なりの主催か共催の形をとることが肝要である。

さて、学校体育分野は教科の授業、週1時間のクラブ活動（必修）校内行事（競技会）と加うるにこれまでのクラブ活動（部活動）であるが、このクラブ（部活動）が今後の最大の問題であり、課題である。

すでに学校体育分野から社会体育分野に移行された地域も多くみられている。

これは教員の勤務時間とそれにともなって、勤務に対する制度と態度などからである。今後5日制になった場合は、部活動は完全に学校体育からはなれて社会体育にならざるを得ないし、それが望ましい姿であろう。

・教員の勤務時間は44時間（週）
・それ以後の〝時間〟は、責任の所在という点から社会人としての教員の身分をはなれて指導する
・したがって、学校体育でなく社会体育である

以上の点から高校はもちろん、中学校もハンドボールのみならずスポーツは一大転換期に遭遇して

いる。

この時期に、早急に各地域、各都道府県で対策を講じなければならない。

日本協会（本部）も、各分野の意見を総括して調整すべきであろう。

この際、特にハンドボールの経験者を総動員して社会体育分野でのチームづくりが急務である。

この点から論を進めて、日本協会（本部）として考えてもらうべきは、「プロコーチ制」である。教員やOBとかが片手間で普及とか技術向上を研究していては、他のスポーツに先んずることは困難である。したがって、プロコーチの確立を早急に望むものである。

▽中学校

現行指導要領においては、球技の中で、バスケットボールまたはハンドボールのいずれかをとることとしているが、その項の記述は殆んどバスケットボールが主体とされており、ハンドボールは、これに準ずる扱いにとどまっている。

指導要領における記述の扱いなり、指導書の扱いをハンドボール独自のものとすべく、日本協会自体はもちろん、地方においても強調し、次期改訂には充分織りこでんもらうべく働きかける。

そのための資料（ハンドボールの特殊性、ハンドボールのよさなど）を整えるべきである。

現在、カリキュラムに組み入れてどのくらい採用されているかのデータも欲しい。

なお、部活動については「高等学校」（前項）とまったく同じである。

▽小学校

ポートボールやミニサッカーより簡単なハンドボールを授業に採用、それには指導者を配置したり養成しなければならない。

発育期における児童に対してもっとも大切な走・跳・投・捕――これを身体的な面から強調して採用することが肝要である。

ハンドボールのゴールがありながら、それをミニサッカーに使って、ハンドボールを行っていない学校があるのは残念である。

〔備考〕 小学校でハンドボールを行う場合、ゴールの大きさ、ボールの大きさ、重量は特に考慮。

補

・一九七二年（昭47）に発行した「ハンドボールテキスト」の再編改編作業を早急に進め、できれば上級用、中級用、初級用の3部作とし、ハンドボール競技そのものの、系統的な理論づけを盛りこむ

・ルールブック（競技規則書）の記述をもっと明確な方法を採るよう研究できないものか。 （了）

在庫少数!!

日本ハンドボール協会編 「ハンドボールテキスト」 ¥300.

お申しこみは日本ハンドボール協会普及部まで

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

海外トピックス

——杉山　茂——
（NHK運動部）

続々と新しい動き

先号でアメリカ地域の活況をお伝えしたが、このところ次々と新しい国のハンドボール活動が伝えられていている。

そのなかで、特に注目されるのは、東ドイツがイラクへナショナルBチームを送ったというニュースと、サウジアラビアが、IHF（国際ハンドボール連盟）へ加盟の打診をしたことだ。

イラクの活動は、以前にもチラリと伝はってきた記憶があるが今回は、バクダットなどで行われた試合記録（3試合＝28－19、30－19、31－20でいずれも東ドイツBの勝ち）も判っている。スコアから推すとかなりの実力である。

サウジアラビアはすでに千人をこす競技者（男子のみ）がいるそうで国内選手権も開かれている。

両国とも、IHFに加盟が認められれば、アジア地域へ編入されることも予想され、今後の動向が気になるところ。（注・両国とも今年2月アジア競技連盟加盟国になっている）

一方、アメリカ大陸ではキューバが本格的に動きはじめ、初の国内選手権が行われたそうだ（＝IHF公報103号）

IHFの狙う〝世界のスポーツへの成長〟は着々と進んでいる感じだが、同時にそれは、日本がいつまでも〝特別区扱い〟されなくなることを示してもいよう。

スパルタ・キエフ勝進む
～女子ヨーロッパ杯～

第13回ヨーロッパカップ女子は2月上旬各地で準々決勝が行われ5連勝の偉業に挑戦のスパルタ・キエフ（ソビエト）は、オデハ（チェコ）を危気なく降して準決勝へ勝ち進んだ。

このほかラドニツキ（ユーゴ）、SC・ライプチヒ（東独）ら東欧勢が勝ちあがり、キント姉妹のミンデン（西独）は、第1戦を落しながら本拠での第2戦に健斗、鮮やかな逆転勝利をおさめた。

▽準々決勝第1戦

ZSKAソフィア（ブルガリア） 13（7－4, 6－3）7 アイントラクト・ミンデン（西独）

ラドニツキ・ベオグラード（ユーゴ） 12（6－4, 6－4）8 ヴァサス・ブダペスト（ハンガリー）

スパルタ キエフ（ソビエト） 21（10－5, 11－10）15 オデハ・フロホベツ（チェコ）

SC・ライプチヒ（東独） 18（12－5, 6－2）7 IL・ベスター（ノルウェー）

▽同第2戦

アイントラクト・ミンデン 16（10－6, 6－3）9 ZSKAソフィア

ヴァサス ブダペスト 15（9－7, 6－5）12 ラドニツキ・ベオグラード

スパルタ キエフ 25（15－6, 10－9）15 オデハ・フロホベツ

SC・ライプチヒ 11（4－6, 7－5）11 IL・ベスター

ノルウェー善戦
東独3国対抗

世界選手権のリハーサル・トーナメントとして東ドイツは2月なかば三国対抗を開催、予選落ちのノルウェーが善戦し、その欠場を惜しむ声が高まった。ノルウェーはこの大会後、マグデバーグでの東ドイツ戦を19－19で引き分けてもいる。

東ドイツ 20（12－11, 8－8）19 ハンガリー

ハンガリー 15（6－6, 9－6）12 ノルウェー

東ドイツ 26（13－8, 13－10）18 ノルウェー

ユーゴが地力示す
コペン国際

コペンハーゲン国際トーナメントは伝統のデンマーク×スウェーデン戦のほかユーゴを招いて行われユーゴが地力勝ちした。

この時のスウェーデンの試合ぶりは高く評価され、まさか世界選手権のベストエイトから脱落するなどとは予想できなかった。

ユーゴ 16（8－6, 8－5）11 デンマーク

スウェーデン 16（8－6, 8－4）10 デンマーク

ユーゴ 21（10－10, 11－10）20 スウェーデン

〝ハンド〟本塁打王の　神戸の一読者から アメリカ大リーグのホームランバッター、ハンク・アーロン（ブレーブス）が、シーズンオフにハンドボールで身体を鍛えている、という記事を読んだ、アメリカでハンドボールはかなりの人気スポーツになったのだろうかという質問をいただいたがどうやらこれは、壁に小球を打ちあててポイントを争う「ウォール・ハンドボール」のようだ。アメリカやカナダでは、日本の親しんでいる競技を「ティーム・ハンドボール」と呼んでいる。

石油危機で流会　オイル危機の影響はハンドボール界にまでは及ぼさなかったと思われていたが、デンマーク協会が恒例の「北欧選手権」の開催を返上したのはその理由からだといろことがこのほど明きらかにされた。

本誌恒例
48年度 重大ニュース
選・編集部

①全日本高校選手権、男女47都道府県代表勢揃いの宿願成る（8月）

全都道府県の代表が〝インター・ハイ〟に集うことは全国高体連ハンドボール部の悲願であり、日本ハンドボール協会の宿願であった。

昭和25年男子31、女子21都道府県の参加で発足、以来24年。ついにその夢が実った。

全国の加盟校数一、三三一。日本協会登録の70％を占める大勢力だ。オリンピックでの実施は、若い層にハンドボールをいちだんと魅力のあるスポーツとして印象づけた。高校界はその力を拡げつづけるであろう。

②ミュンヘン五輪の勝者・ユーゴナショナル招待（9月）

ゴールドメダリストを日本へ――日本協会は10ケ月近くをかけて計画をねり、8月29日夜、ついにその勇姿を羽田空港で見ることができた。

全6戦、ハンドボールファンのみならず、全国のスポーツファンを興奮させた妙技、巧技、迫力。

〝LL砲〟ラザレビッチ、ラブルニッチの両主砲をはじめホルバット、ミルヤク、ポクラヤク、ブガルスキー、GKアルスラナジッチらのプレーはまさに近代ハンドボール史上最強といわれるにふさわしいものがあった。日本側は全日本が、12―23、14―23のほか単独でぶつかった有力実業団も健斗むなしく一蹴された。ユーゴの通算得点156、同失点80。6試合の観客数は延べ二万一千。特に第1戦（対全日本）は久々に東京体育館を人でうづめる盛況であった。


48年9月に来日したユーゴはミュンヘン五輪優勝の実力を遺憾なく発揮した（9月1日・対全日本1回戦・東京体育館）

③一年度内に男女世界選手権へ代表派遣（12月、49年2月）

ユーゴで行われた第5回世界女子に田村正衛団長、井薫監督ら15人、東ドイツで行われた第8回世界男子に林達夫団長、北川勇喜監督ら15人を送りこんだ。一年度内にこのような〝大事業〟をつづけて行なえ得たのも日本協会の成長を裏付けるもの。財政難にあえぎながら男子は国庫（日体協）補助一切なしでの実施だった。

女子は、世界選手権で初めて2勝をマークし10位、男子は欧州遠征初経験者9人という思い切ったメンバーの若返りにもかかわらず気力にあふれた攻守を示し、12位に終ったものの、モントリオールへ希望を抱かす大きな収獲をあげた。

なお、男女とも初めてアジア予選を義務づけられたが、女子（48年3月、対韓国）は韓国の棄権で流会、男子（49年2月、対イスラエル）は、中東情勢がからんで、いちどは参加辞退を申し合せるなど波乱ぶくみだった。

④日本協会登録に底辺対象の「C」ランク新設（4月）

頂点強化を推進する一方、底辺の拡充を望む声も強く、48年度から画期的な試みとして、一般男女の登録をA、B、Cの三ランクに分け、特にCは、AB登録料の10％程度におさえ〝日曜チーム〟といわれる愛好者層の支持を得た。これによって競技人口の確保もある程度なり、初年度は157チームが届出、一般総計の34％強を占めた。新年度の伸びが期待されている。

⑤大同製鋼（愛知）、全日本男子の4大タイトル独占

ここ二、三年でめきめき力をつけて来た大同製鋼は6月のNHK杯を皮切りに、全日本実業団（7月）、千葉国体（10月）で勝ちつづけ、12月の全日本総合でもスピード豊かな攻撃と、たくましい守備力で他チームを寄せつけず、男子としては初めて全日本4大タイ

トル独占の偉業を遂げた。ユーゴナショナルのスノイ監督も「単独では欧州のA級に匹敵」とその強さを認めている。

4大会の通算成績は17戦16勝1分、総得点418、総失点235。

⑥小松市立女高（石川）、高校2冠とる（8月、10月）

豊富な練習量を裏うちにした気力、脚力、チームワークで全国の強豪を押しのけ、全日本高校、千葉国体に連勝したのは絶讃に価しよう。ズバ抜けたポイントゲッターがいるわけではなく、全員の忠実なプレーが勝因。なお、高校女子の2冠は史上8校目。



全日本の4大タイトル独占を果たした大同製鋼は高らかにVサイン　（12月16日・東京体育館）

⑦日韓高校交流に初の女子（8月）

8回の歴史を刻んだ日韓高校交流にはじめて女子が加えられ、韓国1位の慶熙女高が来日した。

試合は桜水商（東京）と12—4、小松市女（石川）と6—10の1勝1敗だったが、韓国女子界の主流へやがては成長するとみられる高校だけに日本協会関係者の関心も高くその秀れた個人技は特に注目を集めた。

⑧理事長に荒川清美氏4選と同氏の日体協理事就任

42年日本協会第7代理事長のポストに就いた荒川清美氏（51才日体大出）は、オリンピックへの参加、国内体制の強化、積極的な事業開発などに手腕を発揮、48年2月の役員改選でも全理事の支持を受け4選、3月の日本体育協会理事選挙では初出馬ながら当選、日本アマチュアスポーツ界の最高幹部の一人として名を連ねることになった。

⑨沖縄特別国体～高校女子～開く（5月）

昨年の本土復帰を祝して沖縄県で華々しく開かれた特別国体にハンドボールは高校女子が参加、沖縄選抜をふくむ全国8代表が新装のコザ市体育館で熱戦を展開、熊本（熊本女商）が優勝した。

地元・沖縄協会（40年創立）の発展も目ざましいものがあり、特に高校の男女計43は全国8番目の数字。

⑩西ドイツからFA・ギョッピンゲン（男）とOSC・ラインハウゼン（女）来日。（4月、9月）

友好のきずな深い西ドイツから今年も新シーズンオープニングシリーズとして過去西ドイツ優勝11回を誇る名門FA・ギョッピンゲンがまず来日、3試合を行ったが、日本側は大同製鋼(高知)、湧永薬品（大阪）が会心の勝利をあげた。単独チームがヨーロッパの一流クラブに勝ったのは42年9月の全立教×西ドイツ選抜以来だった。

9月になると、6年ぶりの女子チームとしてラインハウゼン・オリンピックスポーツクラブが来日5試合を行った。

日本側は、全日本選手を中心とした有力実業団が迎えたが、趣味としてハンドボールをとらえているOSCRは、7人の奥さん選手などでいたってのんびりムード。47年度1位の東京重機（東京）に勝って意地を見せたがあとの4試合は、日本勢の大勝に終った。

しかし、勝負は二の次、美容と健康のためにスポーツを楽しむというこのクラブのいきかたは一つの波紋を投じたようで、特にOGクラブ関係者には刺激剤となった

その他

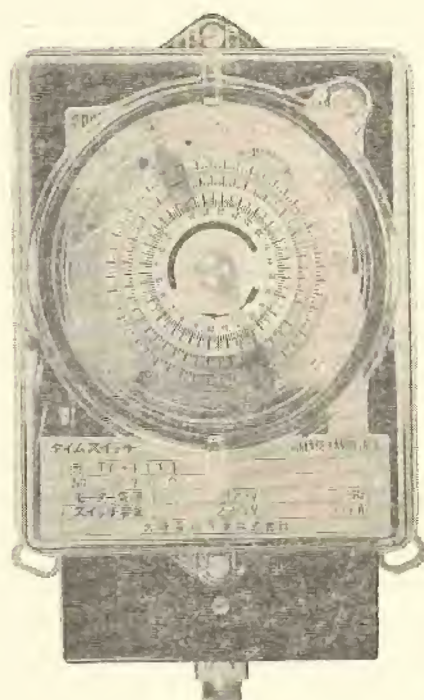
▽立教、関学など伝統校下部へ転落相次ぐ（5月）▽全日本教職員選手権に女子の部新設（8月）▽国際審判員会議に安藤純光、佐野和夫両氏派遣（10月）▽法政、部創立34年目に全日本学生選手権優勝（11月）▽大洋デパートハンドボール部廃部（49年2月）▽韓国女子ジュニア選抜が来日（49年3月）▽木野実、日本選手で初の公式国際試合出場50回を記録（49年3月）

本誌編集委員募集

日本協会編集部では機関誌「ハンドボール」の編集委員を全国から募集します。原則として18才以上、ハンドボール経験者。取材、報道、評論活動のほか、都内及びその近郊のかたは編集の仕事もあります。希望者は編集部まで。

★節電時代のエース★

大崎の
タイムスイッチ



上手なコンビネーションで，予想以上の節電が可能です。

日間・週間・年間の自動定時入切はもちろん，独自のソーラーダイヤルによる日没・日の出時刻の照度に合わせた入切の季節自動修正装置付です。

工場でもオフィスでも，電力・電灯を問わず，出勤・退出に合わせ，また季節による日照・日没に従って，全体または部分的にいちいち人手によらず自動的に入切ができます。

信頼度絶大・メンテナンスフリーの大崎のタイムスイッチをこの際，是非御利用下さい。

《特　長》

- 36時間の停電補償付
- 機種が豊富で用途別に選択が可能
- 消費電力が小さい（約2W）
- スイッチ容量が大（30A）
- 1台で3回路まで制御が可能

大崎電氣工業株式會社

〒141 東京都品川区東五反田2丁目2－7
電話(03) 4 4 3－7 1 7 1（大代表）

昭和48年度 日本協会常務理事会主な動き

◇月例常務理事会（4月7日）
一、日本協会専門委員名簿承認
一、「日本協会規程集」の刊行
一、第5回世界女子選手権アジア予選（日本×韓国）の中止とそれにともなう日本の代表申請
一、同予選大阪大会の代替試合・全日本女子候補×東京重機戦の開催と「チャージドタイムアウト」の試験採用承認
一、第8回世界男子選手権アジア予選、イスラエル体協との第1回交渉報告
一、FA・ギョッピンゲン（西ドイツ男子）の来日打合せ
一、ユーゴ招待予算の修正
一、沖縄特別国体打合せ
一、審判審査委に嶋田新太郎氏を追加（全5名）
一、審判員更新料の改訂検討
一、藤本強常務理事の辞表受理
◇月例常務理事会（5月19日）
一、昭和47年度一般会計収支の体協派遣公認会計士の監査について
一、日韓学生交流（遠征）承認
一、日韓高校交流に女子追加報告
一、第5回世界女子選手権派遣メンバー及び男子頂点強化についての協議
一、ユーゴ招待決定、同打合せ
一、OSC・ラインハウゼン（西ドイツ女子）の来日打合せ
一、第20回NHK杯出場チームを決定
◇月例常務理事会（7月21日、＝6月は休会）
一、昭和48年度女子ナショナルチーム24名の承認
一、男女世界選手権派遣費の協議
一、男子48年度ナショナルチーム監督に北川勇喜氏（日体大男子監督）を承認
一、今後の頂点強化協議
一、対ユーゴ「全日本男子」17名を承認
一、勝繁夫常務理事の辞表受理、渡辺（慶）常務理事を普及部長、技術部長兼務（代行）とする。
◇月例常務理事会（8月25日）
一、ユーゴ戦の受け入れ検討
一、ユーゴ戦の単独対戦に特別補強選手システム承認
一、ユーゴ戦全日本のコーチ陣承認
一、国際審判員会議への派遣協議首席代表に安藤常務理事推せん
一、新しい国体規程の検討
一、第8回世界男子選手権アジア予選について検討
一、当分の間、海外遠征の「全日本」（男女）は役員2、選手12の計14名に限定。このほかに自費参加の団長1とする。
◇月例常務理事会（9月29日）
一、ユーゴ、OSC・ラインハウゼン戦の運営反省
一、国際審判員会議に安藤純光、佐野和夫両氏の派遣承認
一、第5回世界女子選手権出場の全日本女子代表を承認、団長に田村正衛氏の推せん
一、全日本実業団選手権（49年度以降）のサーキット化検討
一、48年度一般会計補正予算編成
一、第25回全日本総合選手権打合せ
一、日韓男子社会人交流の派遣メンバーについて検討
◇月例常務理事会（11月10日＝10月は休会）
一、昭和50年度以降の国体規程について検討
一、今年度全日本高校優秀選手推せん
一、第8回世界男子選手権アジア予選への派遣検討
一、全日本女子の世界選手権及び欧州遠征日程承認
一、全国理事会議案の検討
一、国際審判員会議報告
◇月例常務理事会（12月15日）
一、第8回世界男子選手権アジア予選の派遣検討、同予選出場の全日本代表選こうに関する協議
一、「大洋デパート火災」にともなう諸報告
一、日本スポーツ賞候補（読売）に大同製鋼を推せん
一、昭和50年度以降の国体得点方法など検討
一、IFスタジオン（デンマーク男子）の受け入れ協議
◇月例常務理事会（49年1月12日）
一、第5回世界女子選手権報告
一、48年度男子ナショナル24名を承認、コーチに木野実、大西武三の両氏承認
一、全日本ジュニアの再編成承認
一、今後の女子頂点強化協議
一、昭和49年度一般会計予算検討
一、日体協事業「東独交流」承認
一、愛知教員の韓国遠征承認
一、IFスタジオンの来日打合せ
一、第8回世界男子選手権アジア予選の派遣について協議、「中東戦争は実質的に終結していない。ゲリラ襲撃の危惧はぬぐいされない」との結論から遠征中止―世界選手権棄権を決議、4日後公表を申し合わす。
◇緊急常務理事会（1月16日）
一、1月12日の決議に対するIHF（国際ハンドボール連盟）筋のリアクション報告と対策協議。「12日の結論」を確認。
◇月例常務理事会（2月9日）
一、田村会長よりテルアビブ視察報告
一、全日本男子（世界選手権アジア予選など）の遠征予算承認
一、海外派遣チームの自費同行者に対する検討
一、48年度男子ナショナルに木野コーチを追加
一、今後の国際交流事業検討とヴァドマークIHF理事会見報告
一、ユーゴ戦、ギョッピンゲン戦、ラインハウゼン戦、第25回全日本総合選手権、第5回世界女子選手権各収支決算報告
一、審判員規程の一部改正承認
一、国際審判員に関する要項承認
一、昭和49年度一般会計予算検討
一、普及指導部担当理事として宮本西嗣氏推せん
一、技術部の新機構検討
一、普及対策大系の承認
一、第3回日韓女子社会人交流の承認
一、全国理事会議案の検討
◇月例常務理事会（3月16日）
一、全国教員養成大学々生スポーツ研修大会検討
一、第8回世界男子選手権遠征報告
一、審判員の実技外服装の統一
一、第6回世界学生選手権検討
一、今後の男女頂点強化対策（モントリオール対策）検討
一、各アジア予選及び今後のアジア交流事業についての検討
一、「ミニ（簡易）ハンドボール」の研究検討
一、日本協会代議員制度の検討と「法人化」についての研究

（了）

本田技研、大同破り初優勝

女子は田村10連勝

各地の記録

国内Aクラスチームが集う第13回東海室内選手権は2月24日名古屋の愛知県体育館に東海4県の予選勝者男女各4チームが参加して開かれた。

男子は、全日本4冠王の大同製鋼（愛知）が藤中、中井ら主力5人を世界選手権へ送りこんだ痛手に悩みながら静岡教員団の食い下りをかわして決勝へ進出、本田技研鈴鹿（三重）と優勝を争った。

前半は二転三転してたがいにペースをつかみ切れなかったが、本田は後半9分8—8から3ゴールをあげて優位に立ち、そのあと1点を返されたものの、15分すぎに再び3ゴール、20分14—9として勝利を固いものにした。

本田は初優勝、大同が47年12月10日全日本総合選手権の大崎電気（埼玉）戦以来つづけていた対国内チーム無敗記録（77戦74勝3引き分け）はストップされた。

女子は予想どおり田村紡（三重）×ブラザー工業（愛知）の決勝となり、互角の前半から、後半は田村紡が三毛の巧技とGK久保の好守でブラザーをしのぎ10連勝の偉業を遂げた。三重代表の男女優勝は初めて。

▽男子準決勝（＝1回戦）

大同製鋼（愛知） 23（10—8、13—3）11 静岡教員団

本田技研鈴鹿（三重） 24（11—6、13—3）9 岐阜イーグルス

▽同決勝

本田技研鈴鹿 15（6—5、9—7）12 大同製鋼

	【大同】	得
GK	倉谷	0
GK	小野	0
FP	野田	5
FP	加藤	2
FP	松原	3
FP	石川	0
FP	北村	2
FP	清崎	0
FP	更谷	0
FP	桐山	0
FP	石田	0
FP	中本	0

	【本田】	得
GK	戸田	0
GK	市川	0
FP	勝田	0
FP	田上	2
FP	新実	6
FP	末岡	3
FP	長谷川	3
FP	宮川	0
FP	加藤	0
FP	三浦	0
FP	林	1
FP	矢野	0

（審・石榑、大橋）

15（1）7MT（1）12

▽女子準決勝（＝1回戦）

田村紡（三重） 14（6—1、8—2）3 岐阜選抜

ブラザー工業（愛知） 15（6—1、9—4）5 城北ク（静岡）

▽同決勝

田村紡 11（6—6、5—1）7 ブラザー工業

	【ブ工】	得
GK	井戸田	0
GK	山本	0
FP	鳥居	3
FP	原川	1
FP	小森	1
FP	藤井	1
FP	国府田	1
FP	鈴木	0
FP	藤浪	0
FP	平	0
FP	佐々木	0
FP	宮崎	0

	【田村】	得
GK	久保	0
GK	岡	0
FP	沖	0
FP	辻	2
FP	三毛	4
FP	横山	2
FP	和久井	0
FP	松下	3
FP	金田	0
FP	鈴木	0
FP	落合	0
FP	笠	0

（審・神谷、川島）

11（2）7MT（1）7

イーグルス、湧永を降す

▼大阪室内選手権（2月・大阪市中央体育館）

▽男子準々決勝

大阪イーグルス 37—14 大阪教大

湧永薬品 24—13 佐野工ク

碓骨ク 14—11 大阪ガス

春日丘ク 21—14 オールド・イーグルス

▽同準決勝

大阪イーグルス 18—15 湧永薬品

春日丘ク 19—9 碓骨ク

▽同決勝

大阪イーグルス 34—16 春日丘ク

▽女子1回戦（3試合）

住学ク 7—4 大阪教大

大阪薬大 13—8 大和銀行

大谷ク 14—4 大阪スターズ

▽同準決勝

寝屋川ク 8—3 大谷ク

住学ク 13—4 大阪薬大

▽同決勝

住学ク 10—5 寝屋川ク

修道、呉工に逆転勝ち

▼第3回広島県高校室内選手権（2月・広島県立体育館）

▽男子準々決勝

呉工 20—11 尾道

山陽 14—4 呉宮原

修道 12—1 呉商

広 20—8 城北

▽同準決勝

呉工 10—5 山陽

修道 14—2 広

▽同決勝

修道 8（4—5、4—2）7 呉工

▽女子1回戦（2試合）

広島一女商 33—1 呉商

山陽女 16—1 呉宮原

▽同準決勝

広島一女商 11—3 進徳女

山陽女 24—0 呉豊栄

▽同決勝

広島一女商 7（4—3、3—2）5 山陽女

男子で烏山が初優勝

▼栃木県高校新人大会（1月・栃木県体育館）

▽男子準々決勝

馬頭 18—17 足利工

国学院栃木 28—12 葛生

烏山 8—5 栃木農

足利商 9—8 石橋

▽同準決勝

馬頭 15—6 国学院栃木

烏山 12—7 足利商

▽同決勝

烏山 14（7—6、7—6）12 馬頭

烏山高は初優勝

▽女子1回戦（2試合）

小山城南 8—7 佐野女

国学院栃木 棄権 足利商

▽同準決勝

小山城南 6—4 栃木女

国学院栃木 10—1 馬頭

△同決勝

国学院栃木 8（4—1、4—0）1 小山城南

国学院栃木高は2年ぶり4度目の優勝

本田技研勢が上位占める

▼第13回三重県会長杯男子トーナメント（1月・四日市体育館）

▽準々決勝

本田技研B 20—18 三重教員

本田技研C 26—13 半田ク

明野航空学校 棄権 鳥羽商船

鵜の森ク 17—16 三菱油化

▽準決勝

本田技研B 17（延）16 本田技研C

本田技研 41—3 鵜の森ク

▽決勝

本田技研 24（10—4、14—8）12 本田技研B

一般は高知工専勝つ

▼高知県冬季大会（2月・追手前高）

▽一般男子1回戦（1試合）

高知工専B 18—13 土佐OB

▽同準決勝

高知教員 16—13 中村ク

高知工専B 14—11 高知ク

▽同決勝

高知工専B 29（15—10、14—9）19 高知教員

▽同女子1回戦（＝準決勝）

高知西高 8（延）5 中芸高

高知ク 4—2 城山高

▽同3位決定戦

中芸高 5—3 城山高

ブロック高校選手権

第2回東海室内

◇2月24日◇愛知県体育館◇参加男4、女4校

男子は、実力伯仲のつばぜりあいだったが、静岡農が名南工（愛知）、四日市工（三重）戦ともチャンスを確実に活かす攻撃力の安定感で、相手を上廻り初優勝を飾った。

女子は市邨学園（愛知）×津女（三重）の決勝。延長にもつれこんだが、市邨は守りの立ち直りで津女をおさえ、初優勝を遂げた。

▽男子準決勝（＝1回戦）
四日市工（三重）15（4—5、11—4）9 大垣農（岐阜）
静岡農（静岡）17（6—3、11—7）10 名南工（愛知）
▽同決勝
静岡農 12（3—3、9—6）9 四日市工
▽女子準決勝（＝1回戦）
市邨学園（愛知）12（5—2、7—5）7 富田女（岐阜）
津女（三重）6（2—2、4—2）4 清水商（静岡）
▽同決勝
市邨学園 7（4—4、1—1、…1—0、1—0）5 津女

▽同決勝
高知ク 12（4—3、8—0）3 高知西高
▽高校男子決勝トーナメント1回戦
土佐 11—5 吾北
追手前 16—13 中芸
▽同準決勝
幡多農 20—8 土佐
追手前 17—8 須崎
▽同決勝
追手前 17（9—5、8—9）14 幡多農

氷見と小杉が勝つ

▼第13回富山県高校室内選手権（2月・富山市体育館）
▽男子準々決勝
氷見 17—8 富山商
富山 14—9 滑川
日大高岡 12—11 伏木
八尾 8—7 二上工
▽同準決勝
氷見 19—6 富山
八尾 13—8 日大高岡
▽同決勝
氷見 10（3—2、7—5）7 八尾
▽女子1回戦（3試合）
小杉 9—1 富山北
清光 6—2 高岡
高岡女 8—4 富山女
▽同準決勝
小杉 11—3 有磯
富山女 10—1 清光
△同決勝
小杉 3（2—2、1—0）2 富山女

興南（女）、小禄を破る

▼第9回沖縄県高校新人大会（2月・奥武山体育館）
▽男子準々決勝
那覇 13—8 南部農
沖縄 7—6 浦添
興南 15—13 沖縄工
知念 17—6 首里
▽同準決勝
知念 15—7 沖縄
那覇 12—8 興南
▽同決勝
知念 13（6—1、7—1）2 那覇
▽女子準々決勝
興南 16—2 真和志
小禄 10—4 首里
知念 13—2 豊見城
那覇商 6—5 北山
▽同準決勝
興南 6—5 那覇商
小禄 8—4 知念
▽同決勝
興南 11（6—4、5—3）7 小禄

四日市工、ゆるがず

▼三重県高校新人大会（1月・四日市体育館）
▽男子準々決勝
四日市工 23—1 亀山
津 11—5 尾鷲
津工 25—7 海星
高田 10—8 四日市
▽同準決勝
四日市工 19—8 津
津工 15—11 高田
▽同決勝
四日市工 27（13—4、14—3）7 津工
▽女子準々決勝
津女 15—1 上野商
菰野 7—6 亀山
尾鷲 8—3 津
四日市 8—3 暁
▽同準決勝
津女 18—2 菰野
四日市 15—3 尾鷲
▽同決勝
津女 10（4—1、6—1）2 四日市

名城大付、強味示す

▼名古屋地区高校室内トーナメント（2月・愛知県体育館）
▽男子準々決勝
名城大付 20—6 惟信
桜台 15—9 愛知工
名南工 8—7 明和
松蔭 13—11 熱田
▽同準決勝
名城大付 10—7 桜台
名南工 12—10 松蔭
▽同決勝
名城大付 19（8—2、11—7）9 名南工
▽女子準々決勝
市邨学園 18—5 東海商
半田 17—8 瀬戸
高蔵 9—4 西陵商工
半田商 7—4 名古屋商
▽同準決勝
市邨学園 14—2 半田
高蔵 12—7 半田商
▽同決勝
市邨学園 11（5—4、6—4）8 高蔵

西宮市、明石市に雪じょく

▼第2回明石市×西宮市親善大会（2月24日・西宮市民体育館）
▽高校男子
明石南 16—8 西宮市選抜
▽同女子
西宮市選抜 9—1 明石
▽一般男子
西宮ク 12（7—6、5—5）11 明石ク
（総合成績）西宮市2—1明石市
（通算成績は1勝1敗）

下関中央工、徳山伝統の強味

▼山口県高校新人大会（2月・岩国工高）
▽男子準々決勝
岩国 13—7 下松工
下関中央工 23—4 山口
岩国工 28—3 早鞆
宇部工 11—5 徳山
▽同準決勝
下関中央工 9—5 岩国
岩国工 6—5 宇部工
▽同決勝
下関中央 12（5—3、7—6）9 岩国工

▽女子準々決勝
岩国 13—1 宇部女
徳山 7—4 防府商
下関西 7—3 岩国商
山口中央 9—3 徳山商
▽同準決勝
徳山 9—3 岩国
山口中央 7—6 下関西
▽同決勝
徳山 8（4—3 4—2）5 山口中央

小林商(女)2連勝、女子接戦

▼宮崎県高校新人戦（2月・宮崎県体育館）
▽男子決勝リーグ
宮崎工 11—9 泉ケ丘
日南工 20—10 日南
泉ケ丘 10—9 日南工
宮崎工 19—7 日南
泉ケ丘 24—6 日南
日南工 10—8 宮崎工
【順位】①泉ケ丘2勝1敗（得失点差17）②宮崎工2勝1敗（12）③日南工2勝1敗（11）④日南3敗
▽女子決勝リーグ
小林商 13—4 都城西
小林商 17—2 日南振徳商
都城西 13—5 日南振徳商
【順位】①小林商②都城西③日南振徳商

鹿町工、口加ら制す

▼長崎県高校新人選手権（2月・佐世保商）
▽男子決勝リーグ
長崎工 10—9 口加
鹿町工 24—8 長崎工
鹿町工 24—12 口加
【順位】①鹿町工②長崎工③口加
▽女子決勝トーナメント1回戦
島原農 7—5 佐世保女
佐世保北 7—5 佐世保商
▽同3位決定戦
佐世保商 12—8 佐世保女
▽同決勝
島原農 7（1—1 6—1）2 佐世保北

▼第5回千葉県高校室内選手権（2月・市原市丸善石油体育館）
▽男子決勝
鶴舞 9（5—3 4—4）7 清水
鶴舞高は初優勝
▽女子決勝
昭和学院 14（7—2 7—2）4 佐原女
昭和学院は5連勝

中学大会記録

◇名古屋・市冬季中学大会（2月・笹島中）参加＝男15、女12
▽男子準々決勝
桜田 14—8 千種台
笹島 36—9 猪高
東港 8—6 天白
明豊 23—5 大江
▽同準決勝
笹島 11—8 桜田
明豊 9—5 東港
▽同決勝
笹島 12—11 明豊
笹島中は2連勝
▽女子準々決勝
桜田 8—4 港北
明豊 8—3 猪高
笹島 26—0 桜山
名塚 12—1 港南
▽同準決勝
笹島 10—6 明豊
桜田 7—5 名塚
▽同決勝
笹島 7—5 桜田
笹島中は2連勝

投書欄　明日への提言

ストーリングを罰せよ

機関誌116号「IHF審判研修会報告」（安藤純光氏）を読んで我が意を得たのは、消極的プレーいわゆるストーリングの除去にIHFが指導を行おうという姿勢を示していることだ。

ハンドボール経験のない友人を誘って試合場に行った場合、いったいなんのためにパスを廻しているのか、攻撃意思をなぜ示さないのかを必ず問われるし「あれがハンドボールの欠点だハンドボールをつまらなくする」という言葉が吐かれる。

まったく、セットプレーとかローリングオフェンスとか、高等戦術めかして、消極攻撃さえも美化している昨今の風潮は、ハンドボールの衰退にこそなれ発展にはなんら貢献しない。

IHFの全世界への警告を、日本は特に耳を傾け、レフェリーのようしゃないストーリング厳罰を期待したいと思う。

ヨーロッパのファンは、こうしたプレーに非難の口笛を吹くらしいが、おとなしい日本のファンは騒がないかわりに、二度とハンドボール見物に足を向かわせないことになるだろう。

【東京・二宮　肇・OB】

【お願い】「各地の記録」欄への寄稿を歓迎します。市大会以上の記録をお送り下さい。用紙自由。ブロック大会以外は原文を短かくする場合があります。

【訂正】本誌前号27頁、ルーマニア×中国の記録を2試合としましたのは、ルーマニアの8戦6勝2敗の誤りでしたので訂正します。

前号告示のとおり、本誌は今月号から定価を1冊250円、年間購読料二三〇〇円（11回発行）に改正させていただきます。御協力下さい

★編集後記

□……忙しい1年が終って、休む間もなく新シーズンが幕をあけました。

モントリオールまであと2年余、女子にいたっては、オリンピックへつながる世界選手権がもう来年には開かれます。頂点強化、国際事業に追いまくられている昨今の日本協会です。

□……そうしたなかで、普及指導部が「普及対策大系」をつくりあげました。多範囲にわたって具体的な指示が示され、近来にない労作です。この大系を柱に、小さな技葉を伸ばしていかねばなりません。

強い頂点、広い底辺。小さな努力を積みあげて完成させたいものです。

□……本誌を通じて球界、協会への提言が最近多くなりました。批判と工夫がなければ、前進は望めないのですから、この傾向、大歓迎です。

各都道府県協会や加盟団体がそれぞれで機関誌なり会報を創られるとよいとも思うのですが——。

□……さらに、日本協会内の各部も独自の部報を発行する方向に向けたいものです。本誌もそろそろ〝競争〟と〝刺激〟の欲しい年頃になりました。（S・S）

'73

㈱三景は企業の繁栄を通じて
より豊かな生活、
より明るい社会を創造する。



繊維専門商社　株式会社　三景

グループ本部　東京都千代田区岩本町３－２－10　〒101

㈱北越三景　㈱東京三景　㈱甲商三景　㈱大阪甲商三景
㈱サンレディ　㈱サンワード　㈱サンライン

スポーツの技術史

―― 近代日本のスポーツ技術の歩み ――

新刊



菊判・656頁・上製函入
定価2500円

東京教育大学教授　岸野雄三
東京教育大学助教授　多和健雄　編

●近代スポーツの歩みを技術史的にとらえた
日本における近代スポーツの歩みを、技術史的な視点からたどり、各スポーツ種目ごとの発展の概要をのべたユニークなスポーツ史である。各種スポーツの意味を技術史的に吟味し、それを通じて、人間とスポーツとの文化史的な深さを追求したもので、体育・スポーツ関係者の格好の教養書である。

【収録種目】 ①体操　②陸上競技　③競泳　④柔道　⑤剣道　⑥レスリング　⑦バスケットボール　⑧ハンドボール　⑨バレーボール　⑩サッカー　⑪ラグビー　⑫野球　⑬テニス　⑭卓球　⑮バドミントン

写真と図解による
ハンドボール

荒川清美・石井喜八著

ようやく国際的水準に到達したハンドボール競技の普及・向上に骨身を惜しまず尽力されている著者が、長い間の研究成果を独自の撮影技術による豊富な写真により解説した待望の技術書。

A5判　一四〇頁　定価五〇〇円

大修館書店　〒101 東京・神田錦町3-24　振替／東京40504　㊣294・2221〈大代表〉

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一一八号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
昭和四十九年三月二十五日印刷
昭和四十九年四月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一−一−一
電話 大代代(467)三一二一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百五十円
(年間購読料 二千三百円)